

会長あいさつ

社団法人宮陵会 会長 狩野七郎



今年も変わらずキャンパス内の紅白の梅が香り、卒業生を送り出す季節の始まりを告げる。そして、そのキャンパスには桜の開花とともに新たな希望に満ち満ちた学生が賑わいをみせる季節となるのである。いつの世もこの季節の移ろいは、送るもの迎えるものが交差する風景であり、それは創立者米田吉盛先生によって創立された母校神奈川大学の建学の精神「質実剛健・積極進取」が継承され、社会の荒波に飛翔する神大生を送り出す風景でもある。この春に正会員として迎え入れる若さあふれる卒業生の活躍を大いに期待するものである。

さて、社団法人宮陵会は、神奈川大学の前身横浜専門学校に卒業生の唯一の同窓会として昭和12年3月21日に設立して以来、本年3月に卒業され新たな正会員をお迎えして18万余の会員組織となる。本会は70年の歴史を刻んできた。設立70周年を機にその歴史をふりかえってみよう。

昭和12年の横専同窓会として、初代会長には横浜専門学校校長林頼三郎氏、副会長に樋貝詮三氏・米田吉盛氏（神奈川大学創立者）が就任されている。同窓生名簿を発刊するなど活発な活動を開始していたが、戦時下となりその活動を中断せざるを得なくなった。終戦後、戦災を受けた校舎の再建には同窓生が中心となり募金活動を精力的に行い、教育施設の改修や図書館建設も支援し、昭和24年

70年のあゆみとこれから

の新制神奈川大学の発足におおきく貢献している。この年の11月に同窓会組織を社団法人として再編し卒業生数約1万余の社団法人宮陵会が誕生した。宮陵会の初代理事長には森川利雄氏が就任し、宮陵会報が創刊され、組織の拡充として地方支部が誕生している。しかし戦後の混乱する社会情勢のなか、その活動は数年して事実上休止せざるを得なかったようである。こうしたなか学内勤務の同窓生により再建が計画され、昭和28年に再建総会を開催し、再び活動を開始した。全国の大学に先駆けて母校が開催する地方での父母懇談会や文化講演会には、地方支部の会員の支援が欠かせず、あわせて支部の育成と結束にもおおいに役立っていた。また、在学生と地方支部同窓生の交流も、合宿や演奏旅行など活発に行われていたという。その後の母校の急速な発展により卒業生数は増え続け、会員の把握も難しくなりつつあった。昭和43年に勃発した学園紛争によって母校が荒れるなか、同窓会活動もその影響を大きく受けることになった。この困難な状況のなか、昭和44年に理事長中島克己氏、専務理事藤沢架梁利氏のもと、社団法人宮陵会を存続させつつ新たに神奈川大学同窓会会則を制定し、現在の組織の基礎を創り活動してきた。その後も同窓会は組織と財政基盤の確立を目指して活動してきたが、昭和58年に会費改定を行うとともに、翌59年3月、同窓会の名称を神奈川大学校友会に変更し9万余の全卒業生を会員として再出発した。一方で休眠状態であった社団法人宮陵会の組織については、文部省の指導もあり校友会と宮陵会を一体の組織として活動することを昭和61年の宮陵会再建総会で確認し、校友会から宮陵会へ事業を移管して平成元年4月に統合して社団法人宮陵会として新発足し今日に至っている。

このような歴代の会長をはじめ会員のご努力のなか、昨春秋に本会は設立70周年を迎え、これまでの会員のご理解とご支援に感謝し、ささやかながら設立70周年を祝う記念式典を母校にて挙行したところである。この記念式典には、準会員のなかでも課外活動において世界的活躍をしている学生諸君や親子三代にわたる本会会員のご家族などを表彰させていただき式典に花を添えていただいた。

式典に続く記念講演会では、母校の工学部田嶋和夫教授が開発された研究成果「三相乳化技術の開発により誕生した未来環境対応型、スーパーエマルション燃料」のたいへん素晴らしい記念講演が行われた。先生の開発された新技術によって世界の環境問題が少なからず解消され、人類の平和に貢献されることを祈念してやまない。科学技術の進歩なくしては国の将来が危惧されるなか、このような新開発の芽が生まれる大学の研究と教育が、世界での日本の地位を高めるとともに、理科離れといわれる現代の若者にも大いなる刺激を促すことにもなる。そしてこの研究開発の成果が世界で実用化されることを卒業生会員の多くが期待に胸膨らませているところでもある。

さて、本会の運営については、平成17年度から会長に選任されて以来、神奈川大学の維持発展に必要な援助と本会の目的達成に付随する事項を推進すべく鋭意努めてきたところである。特に財政基盤の確立に関わる会費改定ならびに地方支部との連携強化を図ることに重きをおいて運営してきた。会費改定は、会員皆様のご理解とご協力により19年度から新たな維持会費の制度が開始され順調に進められている。地方支部との連携もブロック組織の新たな立ち上げを含め前進している状況である。もう一方で、本年12月から5年間のうちに組織体制を決めな

ければならない公益法人制度の改正対応があり、こちらでも理事会内に法人人格等検討委員会を立ち上げ鋭意検討しているところである。社団法人として公益性を保ち公益社団法人の認定を受けるか一般社団法人として新制度に移行するか慎重に検討しているところである。いずれ会員の皆様にも本会の考え方を提示させていただきたいと考えている。

つぎに、母校との連携については、昨年の総会時にご来賓として挨拶をいただいた中島三千男学長から、今は大学が競争の渦中にあり、とりわけ学生募集については目標として3万3千人の志願者を集めたい。卒業生のさらなるお力添えをいただきたいと述べられている。本会の地方支部の皆さんからは、地方出身学生をこれまで以上に母校へ進学させたいとの強い希望が寄せられている。18歳人口の減少のなか母校と卒業生との連携強化はできる限りの協力をしていきたいと考えている。また、中島学長は、挨拶のなかで卒業生のなかには先の世界大戦において帰らぬ人となった方々がおられると思うが、神奈川大学ではこれらの学徒出陣した学生や卒業生戦没者を把握していない現状であり、こういった方々の記録を整備することも急務であると考えているとの話があった。われわれ卒業生が知りにえている情報を収集してお役に立ちたいと考えている。年々、戦時下の卒業生が少なくなっていくなかご協力いただければ幸いである。

最後に、70周年記念行事を終えこれからの本会のあり方を考えるとき、この公益法人制度の一大変革期にあたり、会員のご意見を十分に拝聴して70年の歴史ある本会の方向性を熟考のうえご提案していきたく思っている。今後とも変わらぬご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

理事長あいさつ

学校法人神奈川大学理事長 白井宏尚



宮陵会の設立70周年、おめでとうございます。神奈川大学も今年、創立80周年を迎えました。歴史を振り返ってみますと、戦後の混乱期の中で、存亡の危機に見舞われるなど幾多の紆余曲折がありました。今日では1万8千人の学生を擁する総合大学に成長しています。その過程では、宮陵会の全面的なご支援、ご協力が大きな力になりました。神奈川大学を代表して、改めて御礼を申し上げます。

全国の大学は今、少子化という避けようのない社会現象の中で、かつて経験したことのない極めて厳しい経営環境に追い込まれています。神奈川大学にも少子化の波が押し寄せていますが、何とか頑張り続けています。卒業生の関心事項でもありますので、大学の現状と課題について、報告をさせていただきますと思います。

新聞、テレビのニュースでご承知のように平成19年度には、全国の私立大学のうち、約4割の221校が定員未達状態に陥っています。私立大学の場合、年間収入の約8割は、学生生徒の納付金です。このため、学生数の減少は財政の心臓部を直撃し、経営危機に直結することになります。このため、大学の自然淘汰が現実化しております。全国で大学同士の合併や学生の募集停止が相次いでいます。学生の募集停止は、企業で言えば、事実上の倒産です。

もうひとつ、昨年末、大学関係者にとって、極めてショッキングな事実が判明しました。日本私立大学振興・共済事業

魅力ある神奈川大学を構築 80周年を機に改革を推進

団の調査結果として、それによりまずと、全国で大学と短大合わせて98の法人が「経営困難な状態」に陥っています。このうち、15法人が「いつつぶれてもおかしくない状態」、12法人が「現在の学生が在学中に破綻の可能性」、60法人が「現在の備蓄資金を取り崩した段階で破綻する」と判定されています。

神奈川大学は、幸いにして、平成18、19年度とも3万人を超える志願者が集まりました。これは、平成18年度に導入した教育組織の改革・変更、とりわけ新設した人間科学部と国際文化交流学科が受験生の関心呼び、志願者増の原動力になっているからです。しかし、油断は出来ません。志願者の低落傾向に歯止めがかからない学科がありますし、人気の新学部、新学科もさらに中身を充実させないと、やがては受験生に見放されてしまう危険があるからです。

少子化の中の大学間のサバイバル競争を乗り切る最大の決め手は、何と云っても、教育の中身です。教育の質を高めて社会に役立つ優秀な人材を数多く輩出すること、具体的には大学からの出口である就職戦線、質量ともに良好な実績を積み重ねることが重要です。

神奈川大学の改革は、緒に付いたばかりです。さらなる改革が必要です。神奈川大学は今年、創立80周年を迎えました。いくつもの記念事業を展開中ですが、5月15日に予定している創立80周年記念式典で、神奈川大学の将来構想を発表します。この将来構想は、20年後の創立100周年を見据えて、神奈川大学はどうあるべきなのか。教育の内容、組織の在り方を含めて将来像を確定し、社会と学生のニーズに十分に応えられる魅力ある大学の構築を目指して、改革に取り組みます。

将来構想に合わせる形で、学内の組織改革への取り組みを強化します。附属中高と事務局については、既にプロジェクトチームを編成して、改革案づくりに着

手していますが、大学の教員についても人事、給与体系を含めた組織の見直しを検討する委員会を今年6月に立ち上げます。これによって、神奈川大学を構成する大学教員、附属教員、事務職員の方の職域組織全体についての改革案づくりが、そろってスタートすることになります。

これとは別に、大学の最終方針を決定する最も重要な機関である理事会と評議員会の構成を今年9月の改選期から変えることになりました。これも大きな改革です。評議員会は、これまで59人となっていた評議員の総数を15人減らして44人になります。評議員は、学部の新設などに伴って自動的に数が増える仕組みになっていますので、今回これまでのルールをそのまま適用すると、66人になってしまいます。多すぎるのではとの意見もあり、適正数を検討した結果、総数を減らすことに決まりました。

理事会は、15人となっている理事の総数は変えませんが、事務局長を職務上の理事にすることになりました。これで、職務上の理事は、学長と事務局長の二人になります。事務局長は、事務組織のトップであると同時に、教学並びに附属中高全体の動向についても掌握する立場にありますので、神奈川大学と附属中高の重要事項を決定する理事会のメンバーとして、教学を統括する学長とともに必要不可欠からざる適任者です。全国の多くの大学では、既に事務局長が職務上の理事になっていますので、神奈川大学もようやくそうした大学並みになったということでもあります。

寄付行為を含めた神奈川大学の現在の組織は、学園紛争後の混乱期に構築されたものです。当時としては、先進的な組織だったのだと思いますが、社会的な構造が大きく変化した現在では、時代遅れの硬直化した組織になっています。端的に申し上げますと、働いても働かなくても給料は一緒というのが現状です。今時、こん

なシステムを採用しているところは、日本社会の中で、大学以外にはありません。こうした旧態依然たる組織の改革なくして神奈川大学の将来はないと考えています。

話題を変えて、学生の課外活動について紹介します。課外活動は最近、全国的にレベルアップし、世界やアジアの大会で活躍する学生が増えています。今年の北京オリンピックの女子二百メートル平泳ぎには、経済学部4年の種田恵選手が代表に選ばれて、日の丸を揚げてくれるのではと期待しています。常勝軍団の吹奏学部は、全日本吹奏楽コンクールで通算21回目の金賞を受賞しました。

箱根駅伝は、予選会を6位で通過し、正月の本番には出場できたものの、シード権は取れませんでした。来年もまた予選会からの挑戦になります。しかし、大後監督以下の指導体制を強化しましたので、近々、優勝を狙える強いチームになると確信しています。

産業界との連携事業としては、神奈川大学では初めての株式会社「未来環境テクノロジー」を昨年夏に立ち上げました。工学部の田嶋教授が開発した三相乳化技術を使ったスーパーエマルジョン燃料の実用化と販売を業務とする会社です。この燃料は、有害排出ガスを大幅に削減できるうえ、燃費も向上するという優れものです。化粧品や塗料、農薬などにも応用可能なので、将来的には幅広い分野への進出を考えています。

冒頭に紹介したように、日本の大学は今、少子化の中で大きく揺れ動いています。大学にまで市場原理を導入した現在の文教政策の下では、政府も地方自治体も経営危機に陥った私立大学を助けてくれるところは、どこにもありません。神奈川大学は、現在この大学に在籍する全教職員の知恵と努力で守るしか方法はありません。そのために学内組織の改革に取り組んでいます。宮陵会の皆様にもご支援とご協力をお願いします。

学長あいさつ

神奈川大学 学長 中島三千男



皆さん今日は、学長の中島でございます。昨年4月に就任して以来、五月の宮陵会総会や十月の宮陵会設立七十周年記念式典で、また、『宮陵会報』第八四号でご挨拶させていただきました。また、昨年度開催されました、後援会主催の父母懇談会に、私は徳島、香川、静岡、浜松、仙台、盛岡と出席させていただきましたが、その折には当該支部の方々にも大変お世話になりましたし、また九月には陸上競技部駅伝チームが合宿を張ってお世話になっている遠軽町に挨拶に伺ったときには北見支部の皆さんと、また十一月に内子町で行われた、米田吉盛記念公園竣工記念の際には愛媛支部大洲・喜多地区の皆さん等と親しく声を交わすことができました。その節はお世話になりました。皆様方に対して改めて御礼申し上げます。

■志願者3万人を何とか確保

—更なるご支援を—

さて、この三月で終了した本学の二〇〇八年度入試、残念ながら、昨年に引き続いて志願者数を減らし、学長として目標に掲げた三万三千人には届きませんでした。何とか踏みとどまって、三〇三五八名と三万人台の志願者を集めることが出来ました。この三万人という志願者数は全国四百余あります私立大学の中では二十番目ぐらいに位置しています。

昨年の宮陵会総会や宮陵会設立七十周年記念式典で、また、『宮陵会報』で、皆様方に志願者の増大へのご協力をお願い

志願者3万人を確保!! 御礼と更なる御支援のお願い

いたしました。何とか三万人台を確保することができましたのも、宮陵会員の皆様方のご支援の結果だと、改めて御礼申し上げます。

しかし、三万人台を確保したといっても、二年連続して千数百人減らしております。来年度はもう、志願者を減らすわけにはいきません。何とかして、志願者を増やし三万人台を必ず維持し、できれば三万三千人台に到達したいと考えています。その大学が安定的に存在するためには、定員の八倍の志願者が必要とされています。本学で言えばそれが三万三千人という数字です。また、確かに一八歳人口は減っていますが、全ての大学の志願者が減っているわけではございません。いわゆる上位・ブランド校、私立で言えば早慶上智、さらにはマーチ(MARUICHI)と言われる明治、青山、立教、中央、法政などは志願者を増やし続けているのです。さらに学習院、日大、駒沢、専修も志願者を増やしています。

こうした中で本学だけが志願者を減らし続けるわけにはいきません。志願者を増やすか減らすか、今、このことが「上位校」かそうでないかの重要なメルクマールになっていきます。志願者数三万人を割るか割らないか、本学にとつてまったなしの状況、皆さんの母校の浮沈の時です。昨年にも増して、本年度、皆様方のご支援を切にお願いする次第です。

■教育改革の継続

もちろん、本学の志願者を増やす基本は、学生の満足度を高めまた優れた人材を送り出して、社会的な評価を勝ち取ることであります。これはいうまでもありません。私に課せられた課題は、山火前学長のもとで行われた、二〇〇六年度改革を継承発展させると共に、その改革では遺り残した課題や、今日の教育を取り巻く諸情勢が要請している課題に果敢に挑戦することです。今、その主なものだけを列記すれば次のようなものがあります。

まず、教育組織の新增設については、①大学院では、新学部人間科学部に接続する大学院人間科学研究科の設置があります。これは、二〇〇九年度に博士前期(修士)課程・博士後期(博士)課程を同時に開設する予定で準備を進めています。②学部では、「理工学離れ」の中で志願者の減少や一部の学科の定員割れに見舞われている、理学部・工学部の再編の問題、逆に二十一世紀COEプログラムの拠点となるなど、国内外で高い評価を得ている大学院歴史民俗資料科学研究科・日本常民文化研究所の研究教育の成果を生かした新学部の設置などがあります。これらについては、いずれも、二〇一〇年度または二〇一一年度開設を目指して検討を開始しました。

次に、教育内容の改革については、①二〇〇六年度に導入したファーストイヤー・セミナー(FY1S)、キャリア形成科目、昼夜間教育制度などの検証とその充実・発展等があります。これも二〇一〇年度実施を目指して検討を開始いたしました。なお、キャリア形成科目に関し、今年度より、中国、カナダ、ドイツで海外インターンシップを実施します。また、②副専攻制も二〇一〇年度実施に向けて準備を行っています。さらに、③国際的な通用性を高め、学士課程の質の確保をするための厳格な授業評価制(EPS)の導入も二〇〇九年度実施に向けて検討が進んでいます。④このほか、学部生が四年生の時に大学院の単位を履修し、進学院単位早期履修・大学院早期修了制度は本年度から実施します。⑤また、留学生の派遣・受け入れ数の増大など本学の国際化の抜本的な改革を制度改革を含めて二〇〇九年度実施を目指して検討を開始しています。

また、以上述べたような改革を実施するためにも、また、大学・学校法人神奈川大学のイメージアップのためにも、必

要な教員を特別招聘教授として、理事長・学長の下で採用できる制度も本年度よりスタートします。

■駅伝、硬式野球の復活

また、神奈川大学のイメージアップという点では、卒業生・在校生の心を一つにする良き機会である、クラブ活動を積極的に発展させることにも、学長として全力を挙げています。とりわけ、陸上競技部の駅伝については、法人・教学の協力を得て、大後監督を中心とする指導体制を抜本的に強化しました。この二、三年の内に必ずやその効果が現れることと確信しています。硬式野球部も古川監督を中心とした指導体制を強化しました。学長に就任して以降、駅伝に関しては、夏の合宿地・北海道遠軽の視察、予選会の応援、そして箱根駅伝の両日には、テレビ観戦ではなく、車で選手の後を追っかけて応援しました。また、野球部については、試合の応援や二月には宮崎キャンプに視察にも行きました。学長として、この二つのクラブの強化には直接かかわりたいと考えています。

本年は、神奈川大学創立八〇周年という記念すべき年に当たります。本学はこの節目をスタートとしてさらに百周年に向けての歩みを始めます。しかしながら、本学が二十年後、百周年を迎える頃に、日本の大学の中で確固たる地位を占めているかどうかは、それはまさにこの数年の取り組みによって決まるといっても過言ではありません。

学長として、学生の満足度を高めるための教育改革を全力を挙げて継続させるとともに、志願者の確保にも全力を挙げます。どうか、このような努力を行っている本学に、一人でも二人でも多くの志願者・受験者が集まりますよう、皆様方一人ひとりがご家族、身内の方、ご近所、職場、所属団体などで本学を推奨していただけますようお願い申し上げます。

宮陵会設立70周年を迎えて

思い出の記

昭和30年法学科卒業

顧問 渡辺 徳平

旧制福島師範学校の予科を修了して、郷里で小学校の助教諭をしていました。昭和二五年夏、新制大学入学資格認定試験を受けて大学で学べないかと考えるようになり、勿論、親兄弟の援助は受けられませんから当然、苦学することです。

入学試験は、夜行列車で往復して受験しましたから、勤務先を休まずに済みました。そして、僅かの退職金を手に、昭和二六年四月、神大の法科に入学しました。

育英資金の援助は受けましたが、間もなく生活費に窮し、友人二人と工場備付けの部屋に宿泊して夜勤の作業に従事しました。夜勤労働しながら大学にも通いました。無理がたたったのか、間もなく友人たちは胸の病にかかり、夜勤の仕事を止めました。私も病気になることは元も子もないと考えて、間もなく夜勤の仕事を止めて、間借り先の六畳間に生徒を集めて家庭教師をしました。少しは学校にも通いました。大学二年次の期末テストが終わった三月半ば、ついに私も友人と同様の病に冒されてしまい、同年の八月半ばまで市内の病院に入院して治療を受けました。

病院退院後は、これまでのような生活を続けていては、健康の維持も難しいと考え、思い切って市内の法律事務所勤め、昼間の勤めに変えました。大学の授業には全く出席できません。時々、夜間部の授業を聴講して細々と勉強は続けていました。そして期末試験だけは、どうにか時間をやり繰りして受験していただきました。例え、大学卒の資格は得られなくとも、教養課程さえ修了していれば、司法試験二次試験の受験資格はあるものと

考えていましたので、それ程不安は感じませんでした。

ドイツ語の長井先生には、二部の授業に出席して一部の受験を認めてもらいました。その頃、長井先生から、「堀先生や四宮先生は、君のことを本当に考えているから忘れてはいけないよ」と忠告してもらいました。私は、このことを決して忘れたことはありません。このようにして、私は多くの神大の先生方の温情によつて、受験を認めてもらい、大学卒業の資格はかりか法科の代表として卒業証書の授与さえ受けたのです。これら先生方の温情は終生忘れることができない思い出です。

司法研修所に入所する際、面接官から「君は履歴書を間違えて書いたね」と質問されました。職歴と学歴がタブって記載してあるからです。私は「間違いありません。両方していましたから」と答えて、面接官にはどうにか納得してもらったように思いました。

会長就任後、地方支部の総会に出席した折り、法科の同級生から「学生の頃、君に会った記憶がないなあ」と言われたことがありました。私は「君は運動部の卒業生だし、私は法科の卒業生だから」と、冗談で済ませましたが、彼の記憶の方が正しかったのです。この場を借りてお詫び申し上げます。しかし私は真正正銘の神大卒であり、その資格には微塵も誤りがありません。

司法試験に合格してからは、同僚と同じく机を並べて勉強できたので、本当に楽しい二年間でした。司法研修所を終えて横浜弁護士会に入会し、弁護士になりました。いろいろ考えましたが、結局、未組織の一般市民が一番弁護士を必要としている、と考えて、その方針は変えることなく仕事を続けてきました。弁護士会の活動にも積極的に関与しましたし、又、司法試験の受験指導をしていた「とおる会」にも、法科大学院が発足するまで継続して協力いたしました。

横浜弁護士会の会長に就任したとき、全国の弁護士会に先がけて、法律相談セ

ンターを発足させました。この相談センターを開設したことや、とおる会を通じて、毎年多くの法曹を育ててきたことが評価されて、神奈川文化賞を受賞しました。又、勲四等旭日小叙勲も授与されました。弁護士一筋に生きてきて、外部から、このように評価されたことは、本当に幸せなことだと思っています。

山田前会長の後を受けて会長に就任し、二期四年間つとめました。健康もすぐれず、弁護士業務も続けていましたから、皆様方には大きな迷惑を掛けたいと思います。宮陵会の公益社団法人性は、神大の教育研究等を通じて又は神大学生に対する勉強やクラブ活動に対する支援等を通じて、社会文化の発展に貢献することであると考えると、前向きに行ってきたつもりです。新聞や宮陵の発行、プロック会議や支部総会の開催は、その内容を見ると、宮陵会の公益活動の紹介であり、公益活動に対する支援の要請であることがわかります。

弁護士の仕事も続けていましたので、支部会員全部の要望には応えられませんでした。せめて、プロック会議にだけは出席するように心がけていました。支部会員や支部の先輩諸兄に面会し、又、地方で活躍されている話を伺い、その本人と直に接することができたことは、私にとつては、人生の大きな喜びであります。これが会長として私が得た一番の宝です。又、横浜にいても、芝居見物などは、なかなか都合が付きません。それを支部会員の皆様と一緒に、金比羅歌舞伎を観劇できたことは、本当に楽しい思い出です。健康もままならない身体であったため、畳に座っていることも辛く、つい勝手をいって狭い座席に横になつて観劇した無作法までお許しいただき、最後まで観劇できたことは実に有難く、感謝に耐えません。又、全国各地の卒業生の皆様にも、その土地ならではのお話や娯楽までご用意下さり、私にとつては、本当に忘れられない漫遊の旅でした。本文をお借りして厚く御礼申し上げます次第です。又、お会いできる日を楽しみにしていま

す。

婆の独り言

昭和30年経済学科卒業

代議員 柴田 愛子

「あれ、？これ、何んなの？」送られてきました見慣れた宮陵会の封筒の中を見て、思わず声を出しました。何故なら原稿用紙が見えたからです。何故私に？ 真つ先に思い浮かんだのは「女性卒業生で高齢者に属す」ということでした。確かに間違い有りません。思わず自問自答して居りました。

私は昭和二十六年四月、第二法経学部経済科に入学致しました。唯々学びたい、それだけで定めましたのが、戦前迄男子校の「神大」でした。逆に私は男女別クラス制の横浜市立元街小、横浜市立桜ヶ丘高（旧女学校）と「男女七才にして席を同じゅうせず。」その上家庭迄が父親以外は女性でした。このギャップは入試会場から始まりました。

女性唯一人の入試会場。授業の教室でも女性一人。校庭では時折遠方を歩く女性をみては、「あつ、見いつけた」と言つた毎日でした。体育でも辺りに女性が居られた記憶がありません。四列縦隊になります時、私の前後と反対側の列はすぐ長く続きますのに、何故か私の隣は一人分空白が一瞬出来譲り合う気配を感じるのです。

又、教室に於いてもです。何時も隣一列四席分空席なのです。（これ無視とは違いますよ、遠慮といえます。）私はおそらく後ろに空席が有るとしか考えて居りませんでした。今思えば決して正しかったとは言ひ切れません。或る日顔を上げ横を見ますと、多勢立ちのまままで講義をノートしているのが目に入り、驚いて振り返りますと、何んと二・三重に立つたまま聴講しているのです。此の時ばかりは、男性の方々に後ろめたい思い

を致しました。これで終わりでは有りません。女性共通最大の難題、「お手洗の男女同権」こればかりは辞退致したものでした。

木造校舎はガタガタ。床は驚張。歩く度にギンギン音を奏でるのは、戦後間もない事ですので、「欲しがりません勝つ迄は」と、耐える事を頼られた私達には苦になりませんでした。が、お手洗い使用については苦勞致しました。兎に角女性用が無かったのです。考えても見て下さい。男性が立っている後を通って中にはいるのですから。タイミングと勇氣は相当必要でした。そして又、出て行く時が大変なものでした。顔から火の出る思いをして一気に飛び出し、手も洗わず其の場を走り去るのです。一勢に振り返りませんので。若い方々には「何処の後進国の話しの？」と空事のように思われるかも知れませんが、半世紀以前の神大の事実を述べて居るのです。今ですから時効の話として笑って話せるのでしょうか。卒後数十年、神大からお知らせも無く、思い出しもせず、目前の人生を唯黙々と歩み続けて居りました。

或る日「女性の集まりにお出でになりませんか」と、一面識も無い亡き木全委員長からの電話のお誘いを受け、三度目程で思い切って出席致しました。全ての事で皆様より十年程遅れていると言われていた私でしたので、これが謀とは考えても居りませんでした。これが宮陵会に足を踏み入れる始まりです。

そこは、功成り名を挙げた方々の男性社会でした。井戸端会議すら出席した事の無い一主婦が戸惑わなかつたと言ったら、それは完全なうそつき者です。精神的な軋れきは大変なものでした。だが然しです。その場が私にとって、宝の山と気付いたのは何年か後でした。

よい機会ですから少し考えてみて下さい。「耐え難きを耐え忍び難きを忍び。」とは終戦の時放された昭和天皇の言葉です。一面の焼け野原。食する物は少々の大豆粕や、くさりかけた甘藷、そして庭で親が作った南瓜が飢えをしのぎまし

た。

此の様な日本で腹をすかせながら学び、そして、現代の立派な社会を建設したのは誰だろうか先輩の方々でした。豊富な社会知識や経験を経て来られた方々と、直接お会い出来ず事は、私にとりましては所謂「弟子が師の技を盗む」場と変りました。

では何が盗めるのでしょうか。学ぶ者の受け留める心情の角度と大きさで決まるのでしょうか。何が見えて来るかは人により違うことでしょうか。要は常に努力、氣力、氣配りを養わなければ、目前の宝も見落としてしまおうと言っ事です。おや、大変長々おしゃべりをしてしまいました。

姪校も散り果て、婆の上に「梅干」の挨拶頭付く程の私です。お許しください。では失礼致します。

私の学生時代 竹馬の友に支えられて

昭和31年法学科卒業

参与 矢野 達夫

私が神奈川大学の編入学試験を受けて、法学科三年に入学したのは昭和29年4月でした。理科系の大学から文科系への進路変更で、経済的な理由から地元大学の行かせてくれただけでも親に感謝しなければならなかつたが、法律を学びたいという一心で田舎から都会に出て来たのです。

当時、経済学科に小学校時代から同期生の星加君（宇田順三郎氏 元宮陵会宮崎支部長 公認会計士・不動産鑑定士）が在学していて、受験前に学費や生活費などの詳しい情報を送ってもらい、彼を頼って横浜で学生生活を送ることになった。下宿は同宿、片倉町の農家のはなれ二階、もとの養蚕部屋で広さは七畳敷ぐらい、床板に厚手のゴザが敷いてあり、天井はなく梁がむきだし、明りは裸電球一個と小窓一つでした。家賃は格安、食

事は自炊が出来て仕送りが少ない私にとって何とか生活して行けることを実感したのでした。

星加君は穏やかな勉強家で、授業のないうときは図書館にいたようで、部活動をやってた自分とは夜に顔を合わせるだけでしたが、学修の面でも良き相談相手で、国家試験を目指して頑張りとうまく語ったことがあります。彼は昭和30年3月、卒業と同時に下宿を出られたが彼の一年間の生活が私にとって非常に貴重なものだったと痛感しております。

編入学後、最初に直面したのは既修単位の認定申請でした。これからの履修科目の前提となるわけで、教務課の職員が親切に対応してくれたことが印象に残っております。一般教養科目と外国語科目・保健体育科目を合わせて48単位が認定され、法学科の卒業に要する単位に対して専門科目を中心に90単位ほど履修しなければならぬことになりました。数字的には取得不可能な単位ではないのですが、三年・四年で取らなければならぬこと、時間割の上で組めるかどうか問題でした。一年・二年で履修していなければならなかつた法学科の専門科目を優先的に埋め、当然に三年の制当科目を入れて行つたわけですが、憲法や民法総則を受けながら刑法や債権法としてゼミナールを受講するというような不合理で非効率的な履修にならざるを得ませんでした。さらに将来のことを考え、教職科目単位まで取ろうとしました。当時、いろいろと指導・助言をいただいた教務部長の堀教授ですら「君は法学科の専門科目を取って、卒業できれば出来た。教職単位まで取ろうというのは、ちょっと欲張りではないか」と申されました。何か時間割表が埋まって講義を受けることが出来たのですが、期末試験はやはり苦勞の種でした。それなりの準備はしましたが、試験期間中は昼と夜を換えて、朝まで起きていてそのまま試験を受けに行き、試験が終わって帰つたらすぐ寝るようなことをしたものです。一日、二科目試験もあり、試験までの時間が足りな

くても一科目を放棄して、通用門を出るときに校舎を振り返って悔し涙を流したこともありました。さらなる挑戦への闘志をかき立てられもしました。

極めて変則的な学修でしたが、優れた先生方の講義を受けることが出来ただけでも幸せであつたと思っております。特に印象に残っている方は、憲法の黒田先生、国際法の安井先生、刑事学の正木先生そして刑法とゼミの尾後貫先生です。多くの教職員のお力添えがあつて二年間で無事に卒業にこぎつけ、教員採用試験に受かつて横浜市立学校教員に採用され、教職人生へのスタート台に立ったのでした。

学費や生活費を補うためにアルバイトはやらなければならなかつたが、昼間は授業と部活動で精一杯だったので、夜に何時間か働くしかなかった。しかし、出来るだけ長期となつたなか適当な仕事はなく、第二部教務課の職員のお世話でサルベージ会社での夜警をやつたり、夏休みに田舎へ帰つて父が勤めていた会社で使ってもらつたりした。いずれも肉體労働でしたがさほど苦にはならなかつた。

部活動は柔道ですが、田舎の高校時代に講道館に入門していたので、入学後躊躇せず入部しました。柔道部は昭和28年に愛好会から部に昇格したばかりで、小坂部長・角田監督のもと上田主将を中心に10数人が警察署の柔道場を借りて稽古をしていた様です。私のほか一年生が10人ほど入部して大人数になり、警察署に通つての稽古が難しくなつて間もなく、待望の柔剣道空手道場（木造平屋）が完成し、一段と稽古に熱が入り、他の大学との試合がやつてみたいという機運も高まりました。私が初めて出た試合は専修大学との交流戦でしたが、私個人も勝ち、大学としての団体戦で勝ちました。また、この年に神奈川県下三大学柔道大会が行われ、優勝してやつと柔道部創設期の部員のひとりとして仲間入りができたことを忘れたことがありません。四年生になつて、更に部員が増え40人も部員を擁

する柔道部となり、毎日かなり激しい稽古をしましたが幸いに怪我をすることもなく、選手として試合に出ることができました。関東学生柔道優勝大会（30・6・5）は優勝校、埼玉大学に準決勝で惜敗し三位入賞、神奈川県五大学柔道選手権大会（30・6・12）は優勝しました。物事に対して最後までやり遂げる努力をすることや他人に対して思いやる心が培われた青春時代であつたと思います。

卒業後50年余り経つて振り返つてみると、法学科に友達がいなかつたことが非常に寂しかった。僅か50人ほどのクラスでしたが、私の時間割が変則なために顔を合わせないし、ゼミでも殆ど発言することが出来なかつたためです。卒業してから同窓会活動に積極的に参加して、全国的に多数の卒業生諸兄に巡り合ったことは大きな財産です。今や神奈川大学は名実共に総合大学として、進学希望者・在学生の多様なニーズに応え、特色のある学部・学科組織、豊富な教育課程、更に学修活動の支援システムが用意されている。進会員の皆さんはこの恵まれた環境の中で、存分に潤いのある学生生活を送っていただきたいと思つています。更に、宮陵会が進会員のために各種の奨学金制度を創設されているし、課外活動も積極的に支援されている。今後とも継続して充実した制度として発展させていきたいと思います。

宮陵会設立70周年記念「宮陵」の刊行にあたり神奈川大学並びに宮陵会のおますますのご発展と会員諸兄のご健勝をお祈りいたします。

箱根駅伝

—あの感動を！—

昭和41年法律学科卒業

代議員 小坂谷 義夫

完全優勝 神大がV2 | 往路を大逆転で制した神大が、復路も安定した走りです。タスキをつなぎ、一度も首位を譲

ることなく二位に大差をつけてゴールに飛び込んだ。完全優勝で連覇に花を添えた。すでに懐かしい平成十年の箱根駅伝である。将に十年一昔前になってしまった。あのとき、全卒業生が小躍りして喜んだ。全国の同窓生が沸き返った。誰に会っても、自分が走ったかのように興奮していた。

その昔、昭和四十年代始めに神大は学園紛争が勃発して、ほぼ十年間、期末試験も実施できないほど学内は混乱し、殺人事件が起きるなど暗いニュースが新聞に載った。忘れてならない神大歴史上の汚点であり、全国の卒業生は随分と肩身の狭い思いをしていた。

私はその頃も同窓会の役員をしていたが、学内へ入るにも緊張感があった。紛争解決に同窓会が何をできるか——そんなことがいつもテーマで議論していた。少しでも神大の健全性と明るい面を地域に知らせるべきと同窓会が中心になり、プラスバンドやコース、フラメンコ、落語研究会などに参加を呼びかけ、暮れの日、伊勢佐木町の市民ホールを借り切ってチャリティフェスティバルを行ったりもした。会場で寄付金を集めて福祉機関へ贈呈したのである。何年続いたか定かでないが、当初の二年間は私が司会をした。ポスターやチラシの作成、会場準備と結構忙しい思いしたが、小さな記事が新聞に載ることで、満足していた。何よりも紛争の中でも静かに真面目に勉強をし、サークル活動に熱心に取り組んでいる多くの学生がいることを世間知ってほしかった。同窓会も真剣であつた。

紛争の終束と箱根駅伝への参加はほぼ時を同じくしていた。長く神大は駅伝に参加もできなかったのである。山梨学院大が突然彗星のように現れて、駅伝の雄になるのをどんなに羨望をもって眺めたことか。それが、ついに神大は駅伝に復活した。それはそのまま神大の再生でもあつた。全国の同窓生がどんなに明るい気持ちでそのニュースを迎えたことか。

参加すると神大は強かった平成五年には区間一位で「山登り」を制し、翌日もアンカーが八人をこぼす技量にして八位に入り、四十年ぶりにシード権を獲得したときは、優勝したかのように騒いだ。“あわよくば優勝も……”と思つた人も多かったのだらう。この頃「神大を箱根駅伝で優勝させる会」を結成した人達がいいた。募金をつり、選手と交流、激励、熱心に活動していた。私は内心はずかしというか躊躇していた。優勝ははるか先の雲の上のように思えたのである。活動している人もそう早く実現するとは思つてはいなかつたろうが、意外に早く、しかも平成九年優勝、平成十年優勝と連続優勝をしたのである。全国の卒業生は狂喜した。推薦制度も導入されてはいたが、多くは高校時代に無名の選手で一人一人懸命の努力をして優勝を勝ち獲つたのである。将に奇跡である。神大黄金時代が永遠に続くと思つた。優勝をさせる会。の先見性と執着心には脱帽であつた。(もとより、選手諸君、関係者のご努力の賜物である。)

今年も例年のごとく正月の二日、三日と湘南海岸へ応援に行つた。選手は声をかける間もなく目の前を駆け抜けて行く。厳しい練習に耐え、大きな責任を肩に懸命に走る姿には感動せざるを得ない。結果はやや残念であつたが、優勝しなくてもいい、シードにならなくてもいい、しかし来年もどうか走つてくれと願わずにはいられなかつた。

快晴の湘南海岸は美しい。江ノ島の向こうに薄く三浦半島が見え、左には箱根連山が、その上には雪の富士山が浮ぶ。将に正月の絵にふさわしい。選手はこのロケーションを走りぬけ、全国でテレビを見ているのである。東京がスタートとはいへ、コースの八割は神奈川であり、神奈川が舞台である。ネーミングもよかつた。「東京駅伝」や「大学駅伝」、「正月駅伝」が通称にならなくて本当によかつた。箱根の山の上の大自然こそ神聖な魂を感動させるのだ。神奈川県神奈川大

学は必ず参加してほしいものである。

それにしても、箱根駅伝になぜこんなに感動するのであろうか。それは帰属意識、アイデンティティである。母校愛である。誰もが自分の青春とオーバードラップし、過ぎ去った歳月を思い、母校を懐かしむのである。選手と一体になって半分は自分が走り、自分に感動しているのである。そうした感動を与えてくれる母校に感謝し、いつまでもそうした母校であつてほしいと寄付もするのである。箱根駅伝は最大の卒業生の求心力であり、母校が発信する最大の情報源になっている。

今、大学は創立八十周年の案内を呼びかけている。十年毎に繰り返している行事であるが、真に母校愛を喚起し、寄付金を募るなら箱根駅伝のように毎年大学の実情をきめ細かく知らせ卒業生の共感を得ることが肝要であらう。全卒業生が無理なら可能性の高い一部の卒業生に適切な情報を流し、日頃から理解を得る努力をしておくことである。

卒業生に格差をつけるわけではないが、卒業して二十年、三十年が過ぎるとそれぞれ懸命な努力をしても成功する者、うまくいかない者、人生は様々である。努力していたのに会社更生法という社長もいる。それが運命であり、それぞれ懸命に人生を生き抜いているのである。とも角、そうした成功している者にそれだけ大学にも貢献してほしい。幸い、ホームカミングデーなども定着してきた。個人情報難しい時代ではあるが、そうした機会を最大限に活用して情報を集め、できるだけ門戸を広く協力者を募り、卒業生と大学が情報を共有し一体となって大学発展に寄与してほしい。

最近就職した 若い後輩の皆さんへ

昭和51年機械工学科卒業

理事 内藤 正久

私は、昭和51年3月に工学部機械科を卒業し、その年の4月1日に就職してから早いもので32年経過いたしました。

この長いサラリーマン生活を経験した先輩として、就職してまだ日の浅い後輩の皆さんに、日頃よく使われる「プラス志向」「前向き」とか「ポジティブな考え方」とかいろいろ言われますが)について、本当に理解する方法をアドバイスさせていただきますと思います。

私は卒業して32年間で機械科に多少とも関係する仕事は、5年間だけしかできませんでした。あとは、社員教育、子会社の管理、流通小売業の子会社の営業・企画・開発業務、レジャー会社の営業等、さまざまな業種・業態で仕事をしてきました。

実は、社員教育の部署に移る時、子供のころから電車を作りたいという夢がやつと叶えそうな仕事に就けてこれからという時期でしたので、かなり悩みました。また、教育という仕事は自分には絶対向かないと考えておりましたので、一時は退職まで考えたものでした。しかしその時、先輩から、「仕事に合う合わないは、自分で決めるのではなく、第三者が決めるものだ。やってみてから判断すればいい」という忠告を受け、しぶしぶ納得して、やれるところまでやってみようかと決意しました。

ところが、いざ社員教育の仕事を経験してみますと、これがおもしろくてすっかりはまってしまいました。今でも、入社同期生からは、「ティーチャー」とあだ名され、担当した研修生とは仕事仲間として付き合っています。

この時初めて、「マイナス志向」から

「プラス志向」へを体験しましたが、本来の意味での体験や「プラス志向」を理解したのは、このような簡単なことからではありませんでした。

体験したのは、今から16年ぐらい前に、流通小売業の会社(スーパーマーケット)で新店開発や新しい業態の開発の仕事を担当者としていた時のことです。

新しいスーパーマーケットを横浜市内に出店させる企画を担当している時、新店の2階部分を普通の売場(雑貨・衣料品)で構成すると、大きな赤字になることが分かりました。企画マンとしてそのような提案ができるはずもなく、どうにか利益が出せる事業を模索した結果、流通小売業ではあまり例のない、1階はスーパーマーケット、2階は書店と映像・音楽のレンタル事業(今では多くの事例があります)を提案しました。

予想したとおり、レンタル事業は社内ではなかなか理解してもらえませんでした。社長の「よく分からない事業だが、若い奴が一先懸命やりたいたいと言って提案してきているのだから、こはさせてみるか」で新規事業への進出が決まりました。

当然、言いだしつべが責任者です。それから開店までと事業が軌道に乗るまでのすべての責任を負うことになりました。

会社の利益が3〜4億円程度で、2億円超の投資をさせることになる案件でしたので、言葉では言い表せない重圧に、何回も逃げ出そうかと思いました。特にしんどかったのは、孤軍奮闘がんばっていても上司は高みの見物で、親身に助けにくれた人は皆無でした。まさに、丸太をヨロヨロして渡る私を、観客席からいつ落ちるかと思つて皆が面白がつて眺めていたという状況でした。

この時、生まれて初めて本当の意味での「プラス志向」になりました。あれこれ悪いことを考えていてもしかなかった、ここは腹をくくって前向きにやるしかないと思つていました。

問題山積でいろいろありましたが、ど

うにか無事に開店させ、利益もそこそこ確保できる状態になり、一息ついた時、「プラス志向」はいくら本を読んでも、人の話を聞いても、実際に体験しなければ理解することはできないという確信を持ちました。

すなわち、だれでも苦しいことや辛いことから逃避したいものですが、それに立ち向かう勇氣と精神力と知恵を持って壁にぶち当たり、その壁を乗り越えて初めて本当の意味での「プラス志向」になれるのではないかと考えに至りました。会社や立場によって一概には言えませんが、失敗が致命傷にならない年齢、できたら30歳までには一度経験しておくべきだと思います。

おかげさまで私はこの苦しい体験をさせていただきましたので、その後の物の見方も「皮剥けた」と考えております。今の仕事にどれだけ役に立っているかわかりません。

辛いことから逃げるのは簡単ですが、一生逃げて誤魔化しては本当の仕事はできません。ぜひ若いうちに、自分から進んで高い壁を乗り越えて「皮剥けた」価値観を共有しましょう。このような経験をしているかどうかは、少し話をしただけで分かるものです。

最近、人脈を広げるために若い経営者の方達と積極的にお話をしていますが、皆さん様に「プラス志向」ですし、挑戦意欲は旺盛です。

若い後輩の皆さんもどうか自分からさまざまなことにアタックし、活躍されるよう、心から熱望しております。

大学のさらなる発展とネットワークとしての宮陵会

昭和34年法学科卒業
平成13年法博前(修士)

理事 西森 秀明

わが国は、いまや高齢社会、少子社会そして人口減少社会に足を踏み入れた。

高齢化は、平成18年10月1日現在65歳以上の高齢者(以下高齢者という)人口が、2,660万人となり総人口に占める割合(高齢化率)も20.8%となっている。少子化は平成17年の出生数は106万3,000人、出生率(人口1,000人当たりの出生数)も8.4であり、合計特殊出生率(一人の女性が生涯に産む子供の平均数の推計値)も1.26と過去最低の記録となっている。ちなみに東京都は1.00となるなど大都市の地域が低い水準となっている。また人口減少は平成17年の国勢調査結果によれば平成17年10月1日現在の総人口は、1億2,776万8千人で、前年(平成16年)10月1日現在の推計人口(補間補正後)1億2,779万人を2万2千人下回る自然減となった。この減少は第2次世界大戦後はじめてのことであり、わが国が人口減少社会に突入したことが明確となったとしている。さらに今後わが国の総人口は、長期の人口減少過程に入り、平成37年1億2,000万人を下回った後も減少を続け、平成58年には1億人を割って9,938万人となり、平成67年には8,983万人になると推定されている。

さて、18歳人口を主な対象としている大学にとっては、子供の減少はその存続を左右する事態であり、正に危急存亡の秋である。この事態に対し国公立大学を問わずそれぞれが対策を講じ18歳人口の獲得に鎭を削っている。勿論わが母校神奈川大学も例外ではない。18歳当該学生の採用も画一的な学生ではなく特異性のある多様な学生を受け入れ基礎的な教育を行い、本学の建学の精神「質実剛健・積極進取」(学風)によって培われた素質をもった「社会に通用する人材」として送り出すことだと思っております。

さらに多様性で申すならば、再教育の場として社会人(現役)に対して、また高齢者、特に680万人ともいわれる団塊の世代(昭和22、23、24年生)の人々の知的好奇心への対応の場として、大学院(研究所の解放をも含む)の門戸を積極的に開いてほしいのである。そのために

は、神奈川大学の強みを生かしながら持続発展させるために組織改革、歴史的な総括と現状の評価、将来展望、特色ある目標の設定(独自性の確立)、教育研究の質的向上、時代の潮流への対応(少子高齢社会への対応策等)等々を時宜を得て実施するとともに、研究成果を公表し、大学の品格を保ちながら社会から理解されやすい教育組織や教育内容を世に問うことだと思っております。

社団法人宮陵会は、神奈川大学及び神奈川大学大学院(以下「大学という」)の進展とこれが維持後援を図ることを目的(社団法人宮陵会定款第3条)とし、卒業生全体の唯一の団体として卒業生を等しく会員と位置づけ、母校神奈川大学の発展に寄与するとともに会員及び準会員(在学生)相互の親睦を図るものである。また、宮陵会は卒業生個人あるいは各支部を通して大学に対する想いを集約して大学の営みへと昇華させる役割を果たすものである。私事で恐縮であるが、私は大学在学中のかなり早い時期から宮陵会の手伝いを仰せつかった関係で多くの支部(地方、職域、同期、同好)総会等に出席する機会を得て大学の状況や宮陵会の状況を報告申し上げ、それに対するご質問や意見を頂いた。その際卒業生の皆さんのお話は母校に対する熱き想いであつた。これだ、この卒業生の皆さんの「熱き想い」が大学の宝なのだ、そして母校を支える気風なのだと感じる。と同時に大学に在職する者としての責任の重さを痛感したことを想起するのである。

母校も今年創立80周年である、80年ともなると親子三代神奈川大学卒業生だといふご家族も出ている(過日、宮陵会設立70周年記念式典において該当の3家族が表彰された。大学がさらに創立90年、100年を迎えるに従つて、親子四代、親子五代、延いてはご夫婦もお嫁(婿)さんも、親戚も、神大ファミリーを形成することもあながち夢ではない。そのためには大学も卒業生の子弟等を受け入れる制度の確立と子弟等を差し向けるに

相応しい魅力を備えて戴きたいのである。このようにして母校の看板を生涯にわたり背負つて立つ卒業生を会員とする宮陵会は、母校の発展を支えるネットワークとしての役割を担い続けることだと考えている。

最後に、母校がナンバワンの大学になることも望ましいが、特色あるオンリーワンの大学として永劫に発展することを願うものである。

〔註〕人口の動態の数値は、平成19年度版 高齢社会白書(内閣府)を参照した。

偶然って悪くない!

昭和61年法律学科卒業

理事 福元 摩湖

「宮陵会に期待すること私の学生時代」をテーマに原稿を書くように依頼を受け、何について書くべきか、無い頭を絞って考えた。18歳で神奈川大学に入学、縁あって大学で働くことになって、大学入学から既に26年、就職してからも22年が経っている。「宮陵会に期待すること」を熱く語つてしまうと、自分の首を絞めそうなので、「私にとつての神奈川大学」から話を始めてみようと思う。

私が神奈川大学に入学したのは、昭和57年4月。まだ入学式や卒業式に機動隊がやつつくる時代だった。グレーの重苦しい機動隊の車が、今の神大橋の下あたりに止まっていた光景を思い出す。高校の卒業式の直前、演劇部で3年間共に発声練習を続けた仲間と話をしていた時、私が「大学で友達ができなかつたらどうしよう!」と結構マジで言ったら、小生の心配事のようにだと笑われた。同じ高校から神奈川大学に進学する人はいなかったし、当時は男子学生がとて多く、男の子に相手にされることの少なかつた私は、真剣に友達ができないことを心配した。入学すると女の子はクラスの1割程度だったが、体育実技や英語、専門科

目もほとんど同じだったから、毎日顔をあわせるので心配は杞憂に終わった。一つ心配事が片付き、大学に入ったのだから、サークルに入らねば!と思った。私の大学進学目的は「四年間好きなことだけをして過ごす」ことだったから、好きな「社会科(なほ何でも良かった)」の勉強以外にも一つ、何か好きなことを「新しく」見つけようと思ったのだ。はじめは中学・高校でやっていた演劇にしようかと思つたが、母親から放浪の旅に出るようなことだけは止めてくれと懇願され、断念した。脛をかじっている負い目から、今からは想像もつかないほど、聞き分けの良い大学生だった。(ホント?) 入学してしばらくは、いろいろな人呼び止められ勧誘されたが、だんだんとそんな機会も少なくなり、ちよつと焦つてきた頃、一度声をかけられていたアーチエリー部に入つてみようと思つた。理由は簡単で、皆が初めてで一斉に始めるスポーツなら、運動嫌いの自分にもついていけるかもしれないと思つたからだ。ただ、運動嫌いだつたのにもかかわらず、体育会のクラブに入ろうと思つた理由はまだに謎で、自分でも良くわからない。「やつたことなくても平気よ」と笑つていた先輩の一言でその気になってしまったのかもしれない。そして、クラスの友達がアーチエリー部の一年先輩と知り合ひで、紹介してくれたことも一歩を踏み出すきっかけとなり、私はアーチエリー部に入部した。入部してから知り合つた仲間(女子1人と男子大勢)とも馬が合い、私たちが辞めると女子はリーグ戦に出られなくなるという事情もあつて先輩方からは今まで経験したことがない位かまつてもらい、さらに意外に良い成績を残せたりしたものだから、母親から「下阿呆学部アーチエリー学科所属」と言われるほどのめりこんだ。自分の放つた矢がどこに刺さるかだけで、何故あんなに思い悩むことができたのか、今思うと不思議でならないが、確かなことは、私の大学四年間の思い出はアーチエリーでほとんど占められ、大好

きだったはずの「社会科のお勉強」の思
い出は、ゼミの調べ物で国会図書館に行
ったことや先生の家に遊びに行ったこと
程度だったということだ。今になって、
もつと勉強しておくべきだったと反省し
ていることは言うまでも無い。大学4年
の5月に現役を引退してアーチェリーか
ら足を洗い、その後、神奈川大学附属高
校で教育実習をして、いろいろな人との
出会いがあつて事務職員になり、多くの
人に育ててもらつて今の私がある。最近
は、厳しくも暖かい神奈川大学の先輩方
から沢山の刺激を受けている。いろいろ
なことがあつたし、今もいろいろあるけ
れど、有意義で恵まれた日々を過ごして
いる。振り返ってみると、大学を7つ受
験し、何とか合格した3つの大学の中か
ら神奈川大学を選んだことが、私の人生
にこんなに大きな影響を与えることにな
ろうとは、想像もしていなかった。チャ
ンスや人との出会いは大切にしなければな
らないとつくづく思う。

ある女性から一冊の本を紹介された。
彼女は、会社役員として活躍している美
しい人で、私が尊敬する人物の一人だ。
たまたま「キャリア教育」の話になり、
参考になる本があるかと尋ねたら、「そ
の幸運は偶然ではないんです！」(ダイ
ヤモンド社刊)というスタンフォード大
学のクランボルト教授の著書を紹介され
た。彼は、キャリアカウンセリング理論
のリーダー的存在で、ハプンスタンス・
アプローチという理論で知られている。
「キャリアの80%は予期しない偶然の出
来事によって形成される」から、計画が
思うようにいかないことに拘るのではな
く、「予期せぬ出来事を積極的、肯定的に
とらえる」ことが重要で、「予期せぬ出
来事も、実際は、何らかの行動によつて
もたらされるので、運だけに左右される
偶然的出来事ではない」から、「計画外
の出来事が起きるような、変化を呼び込
むような「行動」を起こすことが重要」
だというのが彼の理論だ。自分の人生に
当てはめてみると、今のところ「神奈川
大学への入学」を選択したことが、私に

とつてはとて「重要な「選択だった
ということ」が言えそうである。

大学というところは、何が学べるのか、
何を身に付けられるのかが重要なのは勿
論のことだと思ふが、私はそれ以上に、
その人にとつて何か影響を与えることに
なりそうな、偶然の出会いがたくさん溢
れている「場所」であることが重要な
ではないかと思つている。その人にとつ
て、その後の人生で必然だったと思える
ようなチャンスがいろいろあるところに転
がっている場所であつたら、卒業生はき
つこのキャンパスに戻つてきてくれる
に違いない。私は、そんな「場所」を創
り出すために、これからも神奈川大学で
仕事をしたいと思ふ。そして、大
学と宮陵会が一緒になつて、卒業生が懐
かしく振り返ることのできるきつかけを
つくつていけるように、微力ながら力を
尽くしたいと思つている。

宮陵会に期待する」と と私の学生時代

平成4年建築学科卒業
代議員 飯塚 渉

私は大学卒業後、大学院進学及び1年
間留学、研究生を経て計7年半で4つの
大学において多くの貴重な体験をでき、
その中で特に印象的な出来事の一つは中
国清華大学への留学であつたと思いま
す。

私の研究は旧満州国における日本人住
宅及び住宅地がどのように計画・建設さ
れ、その後住み手が中国人になつてどの
よう変容したかを日本、韓国、台湾と比
較しながら特徴を明らかにすることとし
た。そのため、研究に必要な資料収集や
現地調査をするために留学を決定しまし
た。当時(1993年)の中国で調査を
行うには紹介状や肩書きがとても重要で
あり、特に有名大学であればあるほど優
位で、のちに私が中国清華大学国費留学
生であつたことは色々な場面で便利であ

つたと感じました。国費留学には文部省
(現文部科学省)に研究テーマなど必要
書類を提出し、面接と中国語での質疑応
答の試験があり、理工学系での応募者が
少なかったため、運良く合格ができ、中
国へ旅立つことができました。

国費留学生は学費および寮費、医療費
が免除され、さらに月々4,000円の
生活費が支給されました。この金額は中
国人の平均的な月給と同程度でしたが、外
国人である私にとつて不足感がありまし
たが、生活習慣を現地化することで徐々
に適応して行きました。初めの半年は北
京語学院で中国語の習得のため毎日
午前中授業に出席していましたが、は
じめは全くついていけませんでしたが、半
年後の語学検定に不合格な場合は強制帰
国の噂があつたため、非常に焦りました。
そのため、授業終了後は習ったばかりの
言葉を街に出て実践し、帰宅後は夜遅く
までカセットテープで予習復習の生活を
3ヶ月続けていたら、過度のストレスで
軽いノイローゼ気味になりながらも授業
を理解できるようになり、なんとか無事
修了することができ、清華大学で本格的
に研究活動を開始しました。

清華大学は北京の西北部郊外にあり、
敷地面積が356ヘクタール、横浜キャ
ンパスの約45倍という大きさで、キャン
パス内の移動には自転車や車などを使用
しないと非常に変なでした。私の愛車は
「上海号」というレトロな蕎麦屋の出前
用タイプの自転車でしたが、新車であつ
たためか、購入後3ヶ月も経たない内に
盗難されてしまいました。そこで、留学
生寮の自転車置場にあつた多数の廃車自
転車を使って1台の自転車を完成させ、
盗難されることもなく北京にいる間、私
の頼もしい足として活躍してくれまし
た。清華大学の留学生は多国籍でバラエ
ティー豊かな人々が在籍しており、さま
ざまな文化・習慣に触れる事ができまし
た。生活習慣の違いやそれぞれの母国語
で言葉遊びをしながらも、他国の留学生
は自国や自分自身、家族等への想いや考
えに対するアイデンティティがあり、改

めて日本人としての自分について真面目
に考える機会を与えてくれました。

清華大学在学中のほとんどの期間を中
国東北地方の大連、瀋陽(旧奉天)、長
春(旧新京)、哈爾濱の4都市で調査を
行い、一都市に1ヶ月から1ヵ月半滞在
して、図書館で文献探しと対象となる住
宅および住宅地の現状確認を行いました。
中国の図書館では紹介状があれば、
ある程度自由に書庫で検索することがで
き、さらに通常はコピー厳禁の書物や地
図なども特別に許可が降りることもあり
ました。私の欲しい資料は中国では全く
見られ尋常ではないほどの埃が積つてい
ることがほとんどでしたが、日本では入
手困難な資料を発見し、手に入れた時
の快感は何とも言えず、また誰かと分か
ち合いたいと思うのですが、単独調査だ
つたため、一人寂しく街の食堂で祝杯を
挙げていました。

住宅および住宅地の調査は主に写真撮
影や室内外の間取りのスケッチとヒヤリ
ングを行いました。写真撮影は住宅およ
び住宅地の形状が出来るだけ分かりやす
く撮るために高い建物を探し、時には煙
突に登り、近くの住人に怪しまれること
も多々あり、公安にフィルムを没収され
たこともありました。中国では各種手続
きを申請しても何時に許可が降りるか不
明だったため、常にアポイント無しでの
調査を行っていました。住宅の内部の調
査をする際も同様、突然訪問して研究の
ため調査されていた許可をお願いし
て歩き廻りました。

清華大学の学生証は絶大なる効力があ
り大体快く調査を承諾して頂き、多くの
家宅でお茶や煙草のもてなしをして頂
き、時には昼食をこ馳走になり、とても
友好的に接していただきました。中国語
を話す日本人が珍しかったのか、なか
か帰してももらえず、調査が思いのほか進
まなかつた記憶がありますが、長春では
住宅内に軟禁されたこともあり、戦争に
よる遺恨も体験しました。しかし、私が
接してきた多くの中国人は大陸的な大

かさや、経済開放がされ希望に満ち、活
力あふれる人々で刺激的でした。調査も
何とか終了し、帰国の準備をしている時
に良く考えてみれば、中国本土はもちろ
ん、北京市内の名所観光すら行つてない
のに気づき、慌てて出掛けたのですが、
体調不良で体重が1ヶ月で8kgも痩せて
しまい、体力の落ちた状態で夏の暑い北
京市内を覗いて廻り、最後までドタバタし
ていました。

留学前の私はコミュニケーション能力
も低く、決して社交的ではなかつたので
すが、沢山のひと々と触れ合っているうち
に、徐々に成長させてもらい、さらに物
事の考え方や価値観について衝撃を受
け、今までは違う尺度が構築できたと思
います。この留学経験が今の私に大き
な影響があつたことや多くの人に支えら
れて来たことを思い出させて頂きました。
このよう経験出来るだけ多くの
学生に体験させる機会を与えられるよ
う、さらなる支援を宮陵会に期待し、私
自身も協力できればと考えています。



平成20年度収支予算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(一般会計)

(新会計基準)

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入	2,000,000	1,200,000	800,000
基本財産利息収入	2,000,000	1,200,000	800,000
② 会費収入	108,350,000	109,200,000	△ 850,000
正会員会費収入	10,350,000	12,700,000	△ 2,350,000
準会員会費収入	98,000,000	96,500,000	1,500,000
③ 雑収入	600,000	1,000,000	△ 400,000
会誌広告料	200,000	500,000	△ 300,000
その他収入	400,000	500,000	△ 100,000
事業活動収入計	110,950,000	111,400,000	△ 450,000
2. 事業活動支出			
① 事業費支出	157,824,000	117,971,000	39,853,000
大学主催事業協賛費支出	5,900,000	5,900,000	0
給付奨学金支出	8,000,000	8,000,000	0
特別給付奨学金支出	27,000,000	31,000,000	△ 4,000,000
学生課外活動援助等支出 (クラブ活動等助成費)	6,000,000	6,000,000	0
学生課外活動援助等支出 (特別事業費)	3,055,000	3,055,000	0
学生課外活動援助等支出 (体育振興費)	2,399,000	2,399,000	0
学生課外活動援助等支出 (入学卒業関係費)	6,315,000	7,310,000	△ 995,000
組織費支出	13,802,000	10,778,000	3,024,000
婦人会員特別事業費支出	190,000	619,000	△ 429,000
広報費支出	33,663,000	33,410,000	253,000
事業諸費支出	1,500,000	1,500,000	0
設立70周年記念事業費支出	0	8,000,000	△ 8,000,000
神奈川大学80周年記念寄付金支出	50,000,000	0	50,000,000
管理費支出	21,742,000	23,193,000	△ 1,451,000
給料手当支出	5,850,000	11,578,000	△ 5,728,000
派遣事務費	3,960,000	0	3,960,000
臨時雇賃金支出	1,450,000	1,450,000	0
福利厚生費支出	880,000	1,640,000	△ 760,000
慶弔費	900,000	900,000	0
会議費支出	1,430,000	1,510,000	△ 80,000
旅費交通費支出	100,000	30,000	70,000
通信運搬費支出	1,157,000	1,090,000	67,000
消耗什器備品費支出	200,000	200,000	0
消耗品費支出	1,200,000	1,200,000	0
印刷製本費支出	2,884,000	2,425,000	459,000
賃借料支出	500,000	500,000	0
委託費支出	900,000	300,000	600,000
雑支出	331,000	370,000	△ 39,000
事業活動支出計	179,566,000	141,164,000	38,402,000
事業活動収支差額	△ 68,616,000	△ 29,764,000	△ 38,852,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特定資産取崩収入	50,000,000	8,000,000	42,000,000
設立70周年記念事業費積立金取崩収入	0	8,000,000	△ 8,000,000
神奈川大学80周年記念寄付金事業取崩収入	50,000,000	0	50,000,000
投資活動収入計	50,000,000	8,000,000	42,000,000
2. 投資活動支出			
① 特定資産取得支出	400,000	4,400,000	△ 4,000,000
奨学金積立支出	400,000	400,000	0
設立70周年記念事業積立金支出	0	4,000,000	△ 4,000,000
② 他会計への繰入金支出	10,000,000	0	10,000,000
奨学金運用会計への繰入金支出	10,000,000	0	10,000,000
投資活動支出計	10,400,000	4,400,000	6,000,000
投資活動収支差額	39,600,000	3,600,000	36,000,000
III 財務活動収支の部			
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出			
予備費支出	15,236,972	14,866,972	370,000
当期収支差額	△ 44,252,972	△ 41,030,972	△ 3,222,000
前期繰越収支差額	44,252,972	41,030,972	3,222,000
次期繰越収支差額	0	0	0

本部だより

通常総会の議案
理事会開催状況
代議員会
通常総会

監査
全国支部長会議
設立70周年記念式典
各種委員会開催状況

支部総会関係開催状況
同期同好会開催状況
平成19年度表彰者
新支部長紹介
計報

通常総会の議案

- 平成20年度事業計画
- 1 神奈川大学の進展と維持に必要な援助
 - 2 大学創立80周年記念事業の協力
 - 3 大学公開講座の協賛
 - 4 ホームカミングデーの協賛
 - 5 「神大スポーツ・文化振興会」賛助金募集
 - 6 奨学金の給付及び貸与
 - 7 給付奨学金
 - 8 特定奨学金
 - 9 特別給付奨学金
 - 10 貸与奨学金
 - 11 クラブ活動等援助及び講演会・スポーツ大会等の開催、体育の振興
 - 12 卒業祝賀行事の共催

- 平成20年度予算案の概要
- 1 新入生へ記念品の贈呈(校歌CD)
 - 2 新卒業生へ記念品の贈呈(CDROMII大学と共催)
 - 3 会員相互の連携強化、その他本会の目的達成に付随する事項
 - 4 財政基盤の確立
 - 5 組織の拡充(ブロック会、支部との連携並びにブロック会、支部の設立及び再建支援)
 - 6 会誌・会報の発行
 - 7 会費納入の促進
 - 8 「神奈川大学校友VISAカード」の入会促進及び提携店拡大
 - 9 その他の目的達成に必要な事業

必要な援助としては、母校の創立80周年記念募金事業に対して、総額1億円の寄付をすることとし、20年度5千万円、21年度に5千万円を分割して実施する。また、奨学金の給付及び貸与については、経済的困窮の在学生にとつてたいへん感謝されている本会独自の貸与奨学金制度の資金源として、20年度は一般会計から1千万円を繰り入れて貸与資金を強化する。方、在学中の返還計画が遅延している延滞者に対しては、これまで以上に督促を強化し後輩学生への貸与資金源の確保に努めることにしている。会員相互の連携強化として、財政基盤の確立のため

に、維持会費の納入案内ならびに未納会員への会費納入促進をさらに進めて会費収入の確保に努めることとしている。また、会員への広報活動は、20年度も住所把握している卒業生を対象に広報誌を送付し、本会の活動に理解と協力を求めることにしている。さらに、地方会員の組織拡充として、ブロック組織の新設ならびに神奈川県内の支部新設を推進していくため組織費を増額した。なお、全国支部長会議は隔年開催の休みの年となる。

平成19年度第2回代議員会開催報告
平成20年3月9日(日)午後1時30分から3時10分まで横浜キャンパスセレストホールにて代議員総数380名のうち出席108名委任状出席168名の計276名の出席を得て開催された。磯邊晃議長の議事進行により第1号議案平成20年度事業計画及び収支予算に関する件が審議され、質疑応答の後予算原案の端数処理の一部修正を含めて承認された。この平成20年度事業計画と収支予算書については、19年度末までに所管の文部科学省へ届け出が義務付けられている。なお、定款第42条2項により収支予算のうち經常的な予算の執行は、総会前の執行を認めることが規定されており、20年度通常総会までの經常的経費の執行に支障は無い。

宮陵会理事会開催状況

●平成19年4月20日(金)

議案

一、平成18年度収支決算報告に関する件

二、平成19年度補正予算に関する件

三、表彰規程にもとづく被表彰者の決定に関する件

四、推薦代議員に関する件

五、支部設置承認に関する件

六、支部廃止承認に関する件

七、設立70周年記念事業について

●平成19年5月27日(日)

議案

一、会長の選任に関する件

二、副会長及び専務理事の選任に関する件

三、常任委員長の選任に関する件

四、名誉役員の委嘱に関する件

●平成19年6月28日(木)

議案

一、表彰委員会委員の選任に関する件

二、特別委員会の設置に関する件

三、設立70周年記念式典に関する件

四、全国支部長会議に関する件

五、支部廃止承認に関する件

●平成19年9月28日(金)

議案

一、全国支部長会議に関する件

二、設立70周年記念式典に関する件

●平成19年12月8日(土)

議案

一、平成19年度第2回代議員会の招集に関する件

二、平成20年度第1回代議員会の招集に関する件

三、平成20年度通常総会の招集に関する件

●平成20年2月6日(水)

議案

一、平成20年度事業計画及び収支予算に関する件

二、津久井支部に関する件

宮陵会代議員会

●平成19年5月27日(日)

議案

一、平成18年度収支決算報告に関する件

二、平成19年度補正予算に関する件

三、役員を選任に関する件

●平成20年3月9日(日)

議案

一、平成20年度事業計画及び収支予算に関する件

宮陵会通常総会

●平成19年5月27日(日)

議案

一、平成18年度収支決算報告に関する件

二、平成19年度補正予算に関する件

三、代議員の選任に関する件

四、役員を選任に関する件

五、名誉役員の委嘱に関する件

宮陵会監査

●平成19年5月8日(火)

●平成19年5月11日(金)

平成18年度監査

全国支部長会議

●平成19年10月20日(土)

テーマ「組織の活性化に向けて」

(1)本部と支部との連携について

(2)ブロック会議の現況と今後のブロック組織化について

設立70周年記念式典

第一部記念式典

第二部記念講演会

第三部記念祝賀会

各種委員会開催状況

●平成19年

4月6日 表彰委員会

9日 代議員選考委員会

14日 準会員委員会(新入生歓迎ふるさと懇談会)

16日 財政委員会

23日 顧問会議

28日 役員選考委員会

8月21日 委員長会議

31日 広報委員会

9月4日 設立70周年記念事業特別委員会

法人格等検討特別委員会

ブロック組織等特別委員会

11日 企画特別委員会

14日 広報委員会

19日 別委員会

26日 婦人部委員会

10月4日 広報委員会

12日 別委員会

21日 別委員会

11月1日 別委員会

12日 別委員会

14日 別委員会

19日 別委員会

21日 別委員会

12月18日 別委員会

23日 別委員会

24日 別委員会

30日 別委員会

2月6日 別委員会

支部総会関係開催状況

●平成19年

4月28日 神奈川大学ラグビー部OB会支部総会

5月12日 札幌支部総会

19日 保土ヶ谷・旭区支部総会

6月2日 茨城支部総会

3日 西多摩支部総会

9日 北見支部総会

9日 福岡支部総会

10日 南足柄支部総会

9日 近畿ブロック会議

10日 大阪支部総会

13日 和歌山支部総会

16日 神奈川大学学内校友会支部総会

17日 三浦半島支部総会

17日 空手部OB会支部総会

18日 三重支部総会

23日 清輝会支部総会

24日 24宮陵会支部総会

28日 箱根支部総会

30日 群馬支部総会

長崎支部総会

神奈川大学アメリカンフットボール部OB会支部総会

7月7日 北海道ブロック会議

13日 帯広支部総会

14日 神奈川大学会計人会支部総会

16日 南区支部総会

8月5日 神大バスケットボール部OB会支部総会

9月1日 総会

9日 平塚支部総会

23日 静岡中部支部総会

30日 因幡支部総会

9月13日 演菊会支部設立10周年記念行事

21日 兵庫支部総会

27日 静岡西部支部総会

28日 奈良支部総会

11月3日 九州ブロック会議

10日 長崎支部総会

10日 北陸ブロック会議

10日 福井支部総会

- 大分支部総会
- 鹿児島支部総会
- 神奈川大学ボクシング部創部60周年記念式典
- 神大卓球部OB会支部総会
- 体育会ヨット部OB会支部総会
- (ヨット部創立45周年記念祝賀パーティ)
- 11日 千葉支部総会
- 17日 四国ブロック会議
- 愛媛支部総会
- 青森支部総会
- 愛知みやも会支部総会
- 北九州支部総会
- 岩手支部総会
- 24日 三三支部総会
- 12月1日 高知支部総会
- 柔道部OB会支部総会
- 秋田支部鹿角会地区会
- 2日 防長宮陵会支部総会
- 神奈川区支部総会
- 10日 歩団伍会支部総会
- 平成20年
- 1月3日 香川支部総会
- 26日 島根支部総会
- 佐世保支部総会
- 熊本支部総会
- 三洋みやも会支部総会
- 2月16日 筑豊支部総会
- 3月5日 珊瑚の会支部総会
- 15日 戸塚・栄支部総会

同期同好会開催状況

- 平成19年
- 4月7日 中本ゼミナールOB会
- 5月8日 昭和38年電気科同期会
- 18日 昭和38年工経学科同期会
- 9月22日 サークル「徒歩旅行団ハリス」OB会
- 10月29日 昭和37年法経学部法学科同期会
- 11月10日 英語英文科1回生の集い
- 17日 3K会(会計学研究会)40〜41年卒OB会
- 平成19年度社団法人宮陵会表彰者

宮陵会表彰者

- 功労表彰
- 一、本部関係
- 37経 高橋一行(元理事)
- 一、支部関係
- 34法 木美貞(宮陵三四会支部支部長)
- 感謝表彰
- 一、本部関係
- 45応化48応修 佐藤憲一(元理事)
- 一、支部関係
- 40法 早坂忠芳(前北見支部支部長)
- 36法 田中正美(元秋田支部幹事・鹿角会幹事長)

受章者紹介

- 猪股 敏氏(昭35年機卒)現ト1ハツ(株)相談役は永年にわたる消防機器業界の発展に貢献された功績により平成19年5月、黄綬褒章を受賞されました。栄誉ある受賞に対しお祝い申し上げます
- 40工経 結城康雄(前濱菊会支部支部長)
- 31機 梅津繁(前神大卓球部OB会支部支部長)
- 24法 長谷川松雄(元24宮陵会支部幹事)
- 36経 石井裕二(故人)
- (元神奈川大学陸上競技部OB会支部支部長)
- 18商 木村茂晴(元和歌山支部副支部長・幹事)
- 29機 大森芳二(元三重支部支部長・副支部地区担当理事)
- 24経 井上宇助(元三重支部副支部長・四日市地区担当理事)
- 34経 松岡邦兆(富山支部支部長)
- 20経 草刈貞雄(元山形支部副支部長)
- 18質 榎岡三郎(元山形支部副支部長)

新支部長紹介

- 防長宮陵会支部 長谷川進一(38経)長

訃報
謹んでお悼やみ申し上げます

- 川崎市役所支部 松下孝則(47法)
- 柔道部OB会支部 木村仁(48質)
- 長沢正男殿
- 元神奈川大学経済学部教授 平成19年5月2日ご逝去
- 日吉博殿
- 元神奈川大学工学部教授 平成19年6月14日ご逝去
- 永田忠昭殿(35法) 前珊瑚の会支部長
- 平成19年7月4日ご逝去
- 八木脩次殿(32経) 代議員
- 平成19年7月16日ご逝去
- 石渡義久殿(29経) 代議員
- 平成19年7月18日ご逝去
- 稲本直樹殿
- 元神奈川大学理学部特任教授 平成19年9月15日ご逝去
- 持永恕殿(16・12商) 前九州ブロック会議議長
- 前福岡支部長
- 平成19年10月2日ご逝去
- 川岸一正殿(16・12機) 顧問
- 平成19年11月3日ご逝去
- 妻島正甫殿(10法) 元福岡支部支部長
- 平成19年12月14日ご逝去
- 鈴木正行殿(27質) 南足柄支部支部長
- 平成20年1月25日ご逝去



④ 支部長会議に始まり、九州ブロック会議では、大学当局の白井理事長及び狩野宮陵会会長の挨拶をいただき、津田ブロック長によりブロック会議が

**九州ブロック会議
長崎支部総会**
平成19年10月13日

- ① 理事長 白井 宏尚
- 講師 常石 敬一教授
- ② 会長 狩野 七郎
- ホテルニュータンダ
- ③ 52名
- ④ 支部長会議に始まり、九州ブロック会議では、大学当局の白井理事長及び狩野宮陵会会長の挨拶をいただき、津田ブロック長によりブロック会議が

恒例の講演会は、元神奈川大学陸上競技部部長植田三夫先生より「箱根駅伝と私」のテーマで、駅伝に係わってから今日までの苦労話を交えて熱の籠もったお話をいただきました。懇親会は、合唱同好サークルのサスビンヤスフロイデの発表、ビンゴゲーム等と和気藟々の中、楽しい2時間を過ごしました。二次会は同ホテル内のレストランで開かれ、出席者の半数以上が参加するという嬉しい誤算となり、年齢に関係なく同窓生より一層の懇親を深めた総会・懇親会でした。

札幌支部総会
平成19年5月12日

① 経営企画室長 福元 摩湖
講師 植田 三夫教授

② ホテル札幌ガーデンパレス

③ 70名

④ ここ数年、年配の卒業生諸氏の出席が減少している傾向に加え、北海道からの入学者が少ないことからUターン卒の卒業生も増えず、会の運営も厳しくなっている状況のなか、平成19年5月12日、ホテル札幌ガーデンパレスに於いて平成19年度札幌支部総会・懇親会を開催しました。鈴木支部長の挨拶に続き大学からご出席いただいた経営企画室長福元摩湖氏（S61法卒）より大学の現況、これからの神奈川大学の方向性等について挨拶を兼ねてご報告がありました。総会では、平成18年度の決算の報告、平成19年度の事業計画、同予算の説明があり全ての議案が満場一致で承認されました。

① 経営企画室長 福元 摩湖
② 函館パークホテル
③ 14名
④ 宮陵会本部より福元摩湖様にご出席頂きました。大学を取り巻く現状と今後の神奈川大学の方向性について詳しく説明していただきました。特に最近の少子化による大学経営の難しさについても言及されました。支部としても受験生の確保に尽力しなければならぬと実感しました。当支部も創設50周年を迎えました。参加者の高齢化と減少に悩みながらの支部総会でありました。魅力ある総会にすべく工夫をしなければと思っております。

函館支部総会
平成19年11月3日



- ⑤ 5月12日 平成19年度支部総会・懇親会
- 7月7日 ブロック会議 (帯広支部開催)
- 7月21日 親睦ゴルフコンペ
- 8月25日 駅伝チーム深川台宿 激励会
- 12月1日 忘年会
- 2月2日 新年会



④ 支部総会を管内3市の持ち回り開催としてから2年目、宿泊を伴う懇親会となったにもかかわらず、出席者が多くなりました。

北見支部総会
平成19年6月9日

- ① 専務理事 平能 孝一
- ② 紋別セントラルホテル
- ③ 22名
- ④ 健康上の理由で昨年支部長を辞された早坂前支部長に宮陵会より感謝表彰があり、平能専務理事より授与されました。



⑤ 各地区（青森・八戸）での忘年会、近況を語る会の実施。

青森支部総会
平成19年11月17日

① 専務理事 小川 勲夫

② 八戸市

③ 14名

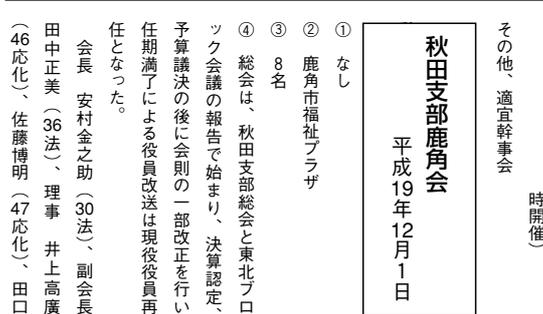
④ 少人数ではあったが和気あいあいの中時間が過ぎていきました。青森地区からの参加もあり、今後交流を深めて活発にしていきたいと考えております。今後も御支援よろしく申し上げます。

⑤ なり開催地持ち回りの効果があった。紋別地区会員の協力で盛会のうちに懇親会を終了する事が出来ました。平成19年7月7日 北海道ブロック会議出席(帯広支部)

平成19年7月17日 支部会員に平成19年度支部総会報告及び支部会員名簿発送

平成19年9月3日 陸上部遠征時 合宿 激励会出席

平成19年10月20日 支部長会議出席



① なし

② 鹿角市福祉プラザ

③ 8名

④ 総会は、秋田支部総会と東北ブロック会議の報告で始まり、決算認定、予算議決の後に会則の一部改正を行い任期満了による役員改選は現役員再任となった。

会長 安村金之助(30法)、副会長 田中正美(36法)、理事 井上高廣(46応化)、佐藤博明(47応化)、田口

秋田支部鹿角会
平成19年12月1日

③ 27名

④ はじめての来賓となった小川専務理事をお迎えし開催。女性現役4年生も加わり和気あいあいの中、「日本のふるさと」遠野市の本田市長より来年の東北ブロック会議の遠野開催宣言。福岡支部長より再来年の支部結成60周年に向けての抱負も披露され盛会に終了。

⑤ 2008年2月 新年交歓会 8月 納涼ビア パーティー

11月 定時総会(東北ブロック会議同時開催)

支部だより

北海道ブロック会議
 東北ブロック会議
 北陸ブロック会議
 近畿ブロック会議
 四国ブロック会議
 九州ブロック

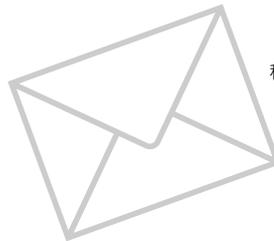
帯広支部
 秋田支部
 福井支部
 大阪支部
 愛媛支部
 長崎支部

佐世保支部
 熊本支部
 大分支部
 鹿児島支部

南区支部
 旭区支部
 保土ヶ谷支部
 戸塚支部
 箱根支部
 平塚支部
 西多摩支部
 南足柄支部
 三浦半島支部

クリエートメディック支部
 神奈川大学会計人会支部
 みやも電華会支部
 24宮陵会支部
 歩田伍会支部
 三三会支部

神奈川大学ボクシング部創部60周年記念式典
 神大バスケットボール部OB会支部
 空手部OB会支部
 柔道部OB会支部
 神奈川大学アメリカンフットボール部OB会支部
 神大レスリング部OB会支部
 神奈川大学ラグビー部OB会支部
 神大卓球部OB会支部
 体育会ヨット部OB会支部
 濱菊会支部
 神奈川大学学士山岳会支部
 神奈川大学写真研究会OB会支部
 清輝会支部
 女性会員のつとめ



- ① 大学・宮陵会からの出席者
- ② 開催場所
- ③ 参加人数
- ④ 開催コメント
- ⑤ 支部活動（年間予定）

北海道ブロック会議 帯広支部総会

平成19年7月7日

- ① 常務理事 貝田 泰雄
副会長 新井 三夫
- ② 帯広フシントンホテル
- ③ 39名
- ④ 本年度は、第10回北海道ブロック会議との併催ということもあり、支部開設時以来の参加人数（支部参加者26名）となりました。

ブロック会議については、昨年から実行委員会を立ち上げ準備を重ねてきましたが、大学・宮陵会より2名のご来賓をはじめ道内6支部より11名の参加を頂き、各位の絶大なるご協力を得て、盛会裏に終了させて頂いていただきましたことをご報告すると共に、改めて各位に対しまして厚く御礼申し上げます。



- ⑤ 支部総会 7月7日開催
パークゴルフ大会 7月8日開催
(16名参加)
役員会適宜開催予定

東北ブロック会議 秋田支部総会

平成19年10月27日



- ① 理事長 白井 宏尚
副会長 武笠 建次

北陸ブロック会議 福井支部総会

平成19年10月14日

- ① 常務理事 貝田 泰雄
副会長 秋田 琢次
- ② 福井県協ビル
- ③ 37名
- ④ 平成19年度福井支部総会・北陸ブロック会議を会友30数名の出席のもと開催。総会において16・19年度の活動報告。ブロック会議においては貝田常務から大学の現況について詳細な説明がありました。秋田副会長からは宮陵会と学生の活躍の紹介等もありました。石川支部からブロック会議の運営の仕方の提案もあり、今後北陸ブロックで協議することになりました。



在本教授「地震災害の軽減に向けて」の講演は能登沖地震の直後でもあり非常に意義のある内容でした。

近畿ブロック会議 大阪支部総会

平成19年6月10日

- ① 理事長 白井 宏尚
常務理事 貝田 泰雄
事務局長 高橋 規則
会長 狩野 七郎
副会長 武笠 建次
専務理事 平能 孝一
ホテルサンルート松山
- ② 48名
- ③ 狩野会長に出席して頂き開催しました。当日は四国ブロック会と重なり短時間での支部総会になりましたが、各地区からの活動報告もあり、非常に有意義な支部総会になりました。



四国ブロック会議 愛媛支部総会

平成19年11月17日

- ① 理事長 白井 宏尚
常務理事 貝田 泰雄
事務局長 高橋 規則
会長 狩野 七郎
副会長 武笠 建次
専務理事 平能 孝一
ホテルサンルート松山
- ② 48名
- ③ 狩野会長に出席して頂き開催しました。当日は四国ブロック会と重なり短時間での支部総会になりましたが、各地区からの活動報告もあり、非常に有意義な支部総会になりました。



在本教授「日本経済と金融政策」との演題にてご講演頂きました。その後、懇親会に移り、出席者の自己紹介等大いに盛り上がり、盛大に開催することが、出来ました。

- ① ティーゴルフへの参加
- ② 3、6月 総会
- ③ 4、9月 親睦ゴルフ大会（神奈川県立川大卒業生だけの）
- ④ 5、12月 大学ジャズフェスティバルへの後援
- ⑤ 6、1月 新年会（今年は館林市開催）

静岡西部支部総会

平成19年9月23日

- ① 専務理事 大場 憲治
- ② オークラアクトシティホテル浜松
- ③ 32名
- ④ 本年度もジャズバンド「ゴルフデン・スターズ」を迎え、華やかなジャズの演奏を聴きながら懐かしい大学生活について語り合うことが出来ました。平成12年卒の杉山貴裕氏のトランペット伴奏に合わせて校歌を斉唱し、次回の再会を期して本年の総会を終りました。
- ⑤ 年間3回（7月・8月・9月）事務局会議を開催し、総会の打ち合わせ・反省会を行なっています。毎年総会を開催する予定となっております。



愛知みやも会支部総会

平成19年11月11日

- ① 審議役 打田 一夫
- ② 東京第一ホテル錦
- ③ 23名（当日1名欠）
- ④ 名古屋の中心栄の東京第一ホテル錦にて開催、宮崎副会長の司会により各議題を進め、特に総会出席者増を計る為、6月に改訂し、それに伴い会計年度を3月に変更する事等承認された。その後、打田審議役より大学の現状等をお話し戴いた。その後懇親会に入り、前年よりも盛り上がる中シャンソンのアトラクションを楽しみました。
- ⑤ 田岡（35名）顧問の中めのあと、来年の再会を誓い散会いたしました。
- ・4月 定例ゴルフコンペ
- ・5月 箱根ゴルフ研修会（有志）
- ・4月 役員会
- ・6月 定時総会（二月より変更）
- ・10月 定例ゴルフコンペ
- ・10月 半期役員会



三重支部総会

平成19年6月17日

- ① 副会長 武笠 建次
- ② 四日市シティホテル
- ③ 23名

- ④ 支部長あいさつの後、宮陵会副会長武笠氏より会員2名へ宮陵会活動に対する感謝状が手渡される。総会案件は18年度事業報告、19年度活動計画など4件で全て承認される。懇親会は、会員2名スピーチや〇×クイズを織り込み、和やかな雰囲気ながら進行し、最後に校歌斉唱にてお開きとなりました。
- ⑤ 役員会 年4回開催
- ・会報「MNEWS」年2回発行
- ・クラブの活動 1クラブ2回5回開催
- ・全日本大学駅伝沿道応援出場できず中止
- ・会員交流行事「地域間交流と熊野古道の旅」バス旅行1回



和歌山支部総会

平成19年6月10日

- ① 副会長 秋田 琢次
- ② ホテルグランヴィア和歌山
- ③ 16名
- ④ 今年役員改選期であり、中村支部長、山本副支部長、巽副支部長、各幹事が選任されました。支部長より、来年度の近畿ブロック会議開催への協力依頼があり、秋田副会長よりは、「神大百科」を参考とし、大学の現状

平成19年度宮陵会和歌山県支部総会



- ① 問題点の報告がなされました。本年の参加者は16名と少なかつたが、各人が自分の現状報告や現社会情勢について、思うところを語り、いっになく、和やかな、気持のよい校友会となりました。
- ② 会報「神和会」発刊
- ③ 新年会開催
- ④ 事務局次長 土方 敏裕
- ⑤ 神奈川大学 植田 三夫名誉教授

兵庫支部総会

平成19年9月9日



- ① 楠会館
- ② 41名
- ③ 本年度も精神社境内にある楠会館にて開催された。
- ④ 本年度は昨年度の反省から若い平成の卒業生の参加を呼びかける為、特別に幹事が電話をかけた特別にハガキを出す等した。これからは参加を待つだけでは無く積極的に動かないと尻すばみになる事が判った。
- ⑤ 1、1月新年会
- 2、ゴルフコンペを年4回行なう
- 3、大学の運動部の応援を積極的に行なう（この事が支部の活性化につながる）

奈良支部総会

平成19年9月30日

- ① 専務理事 小川 勲夫
- ② 榎原観光ホテル
- ③ 12名
- ④ 例年奈良市内で開催していたが、趣きを変え（出席者増を期待）、比較的会員在住の多い南和地区・橿原市で開催しました。本年は初参加者2名がいましたが、総数は11名と例年と変わりません。この方達を今後とも大事にしていきたい。
- ⑤ 春（4月）秋（10月）年2回有志



- によるゴルフコンペ開催 夫婦同伴2組ありました。

京磁支部総会

平成19年6月24日

- ① 専務局長 小林 孝吉
- 講師 田嶋教授
- ② 京都新阪急ホテル
- ③ 22名
- ④ 少子化時代で大学も存立できず廃校になる所もでてくる。しかし本学は上昇基調である。多々現況の説明頂いた。田嶋教授の講演は重大な研究成果であり、各メディアも大々的に取り上げたこと。本学において企業化される予定でもある。講演をお聞きし感銘し、皆、熱心に傾聴され、その後で、大いに質問したり、議論され、楽しく有意義な一時であった。
- 支部会の方は、次年度の計画案で、どの様に結集するかその活動策を検討すること、また計画予定案を発表した。他大学も卒業生の会を強化されていて、本校は17位である旨も伝達した。今後も場合すべく努めるところである。
- ⑤ 1、支部総会開催
- 2、新年会開催
- 3、本部及び他支部会参加
- 4、京都北部方面の会員開拓
- 5、女性会員の開拓



裕 49貿易 引き続き会場を移し懇親会を行った。

- ⑤ 本会活動の活性化
- ・ 宮陵会本部並びに秋田支部の活動への参加
- ・ 神大スポーツ文化振興会への援助金支援



山形県支部総会

平成19年11月10日

- ① 専務理事 平能 孝一
- ② 鶴岡市グラウンド・エル・サン 53名
- ③ 午後1時30分より、第39会県支部総会を開催。席上、植岡・草刈両先輩に対し宮陵会より感謝状が贈られた。平能専務理事の祝辞と母校の現状と今後についても興味深く拝聴、記念講演は、当市にある加茂水族館館長、村上龍男氏の、クラゲに関する講演を成る程演題とあり「小さいけれど世界」の水族館と納得した次第。講演の途中でスライドの原画が飛び出し画面が横になったり、順番がバラバラになるハプニングもあったが無事終了した。（これぞ、正しく神大らしさ！）陰の声
- ④ 1、県内4地域に分け、各地域で活動を充実に、地域での絆を深める。
- 2、各地域で、最小でも1回は集

会を開催する。

- 3、当分の間、総会には各区の役員を総代とし、総会を開催、周年年次に全員に案内を発送し従来通りの総会を開催する。
- 4、来年は40周年に当たり周年をどのように開催するかは今後役員会で検討する。



宮城支部総会

平成19年11月10日

- ① 会長 狩野 七郎
- ② 仙台ガーデンパレス 41名
- ③ 総会を通じて会員相互の親睦を計
- ④ 1、年一度の校歌、応援歌を歌い母校を思い出す事が大切。会員同志の新しい人間関係を築くこと。
- ⑤ 平成20年度事業計画
- 1、宮城支部総会 平成20年11月
- 2、会員間による同業種、異業種交流、情報交換の充実
- 3、女性会員と若年会員参加意識の促進
- 4、会員各自の健康増進を図り懇親ゴルフコンペの開催
- 5、吹奏楽団を呼び、宮城会の活性化を図りたい
- 6、毎月第三水曜日PM6:00より



り、年一度の校歌、応援歌を歌い母校を思い出す事が大切。

- ⑤ 平成20年度事業計画
- 1、宮城支部総会 平成20年11月
- 2、会員間による同業種、異業種交流、情報交換の充実
- 3、女性会員と若年会員参加意識の促進
- 4、会員各自の健康増進を図り懇親ゴルフコンペの開催
- 5、吹奏楽団を呼び、宮城会の活性化を図りたい
- 6、毎月第三水曜日PM6:00より

新潟支部総会

平成19年11月10日

- ① 事務局長次長 小林 孝吉
- ② ホテルニューオータニ長岡 46名
- ③ 11月10日(土)“ホテルニューオータニ長岡”におきまして本部より小林孝吉事務局長をお迎えして開催いたしました。
- ④ 9年ぶりの長岡開催ということもあり、出席は46名、(内女性1名)大勢の方々からご出席いただき、盛会の内に終える事が出来ました。
- ⑤ 11月 支部総会開催予定



千葉支部総会

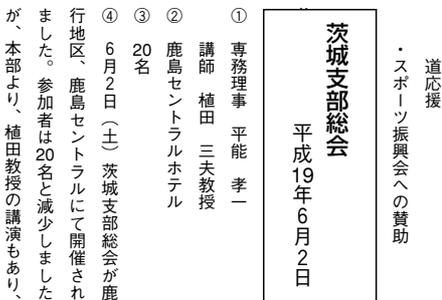
平成19年11月11日



- ① 副会長 武笠 建次
- ② 東天紅 48名
- ③ 本年は、宮陵会から、副会長の武笠建次氏を迎えての「千葉の集い」であった。昨年より参加人数は若干減少したが箱根駅伝の出場を決めた事もあり、会は盛り上がった。来年は神大創立80周年、母校の更なる発展を祈る会であった。
- ④ 箱根駅伝への支部有志による浴道応援
- ・ スポーツ振興会への賛助
- ⑤ 専務理事 平能 孝一
- 講師 植田 三夫教授
- ⑥ 鹿島セントラルホテル 20名
- ⑦ 6月2日(土)茨城支部総会が鹿行地区、鹿島セントラルにて開催されました。参加者は20名と減少しましたが、本部より、植田教授の講演もあり、

茨城支部総会

平成19年6月2日



盛況に行なわれました。現状は総会のみにて、準備中です。



群馬支部総会

平成19年6月30日

- ① 管財部長 村川 浩幸
- ② 高崎ビューホテル 30名
- ③ 案内状の送付先を絞り込みました。出席者数は過去2回の総会とほぼ同数となりました。しかし、出席者の顔ぶれが常連化してきていることは検討の余地があると思っており、新たなイベントを計画する必要性があると考
- ④ 1、支部総会および懇親会
- 2、箱根駅伝必勝ダルマの贈呈
- 3、親睦ゴルフコンペ
- 4、箱根駅伝予選会の応援(実際は富士見高原研修所へ陸上競技部合宿を激励(8月18日))
- 5、新年会
- 6、役員会(随時)

群馬東毛支部総会

平成19年6月23日

- ① 専務理事 平能 孝一
- ② ホテルパインヒル太田 15名
- ③ 今年の総会案内は、今まで出席しなかった方、年会費未納者、返信のほとんどなかった方を除いて約半数の250名にしましたが期待に反して返信率は30%でした。
- ④ また出席者は19名中4名が都合悪く欠席となり15名と過去最低の人数で、今後出席数アップをめざしたい。なかなか総会懇親会と終了し来年の再開を約束し、二次会へと移り大変な盛り上がりでした。
- ⑤ 1、役員会(春4月と秋9、10月の2回)
- 2、6月 太田市大学交流チャリ

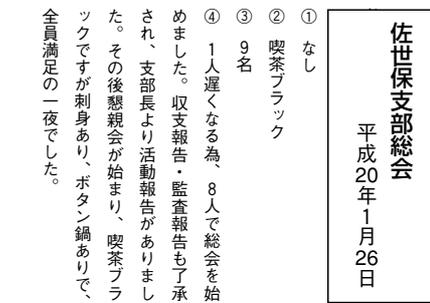




- ① 専務理事 大場 憲治
- ② はぐくれ荘
- ③ 12名
- ④ 大場憲治専務理事をお迎えての総会であった。母校の現状や振興対策等の変遷、変貌振りを聞き、成長発展を再認識した。地域支部では特にスポーツや学問での活躍で母校の名前が発表されて後輩の健闘振りにも大いに勇気付けられる。母校が21世紀において充実した選ばれる大学になれるように宮陵会支部会員としては見守って行きたい。
- ⑤ 平成19年4月 佐賀支部役員会
7月 佐賀支部役員会

佐賀支部総会
平成19年10月28日

- を辞め、若手による活性化が一番だと
思います。
- ⑤ 1月 京築ブロック会
- 4月 役員観覧会
- 7月 京築ブロック会
- 8月 存学生交流会
- 10月 九州ブロック長崎会議
6名参加
- 11月 年次総会



- ① なし
- ② 喫茶フランク
- ③ 9名
- ④ 1人遅くなる為、8人で総会を始めました。収支報告・監査報告も了承され、支部長より活動報告がありました。その後懇親会が始まり、喫茶フランクですが刺身あり、ボタン鍋ありで、全員満足の一夜でした。
- ⑤ 1、19年6月30日(土) 長崎支部の集い ニュータンダ
- 2、神奈川大学同窓会有志による「斉藤つよし後援会ニュース」発送
- 3、10月13日(土) 第31回九州ブロック大会ニユータンダ

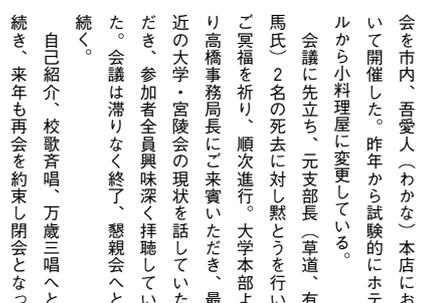
長崎支部総会
平成19年6月30日

- 10月 九州ブロック
長崎大会出席
- 11月 佐賀支部総会
- 平成20年2月 佐賀支部役員会



- ① 事務局長 稲垣 俊博
- ② 鶴屋百貨店7階カーネーションサロン
- ③ 40名
- ④ 2007年8月開催の第30回全日本大学軟式野球選手権大会において準優勝に輝いた平塚軟式野球部より田島部長と後藤コーチがメダル持参で報告に来熊されました。また昨年の総会にて「熊本引く支部の歌」を作成・披露いただいた浦田会長が、今回の演奏で

熊本支部総会
平成20年1月26日



- ① 事務局長 高橋 規則
- ② 吾愛人(わかな) 本店
- ③ 24名
- ④ 平成19年11月10日、鹿児島支部総会を市内、吾愛人(わかな) 本店において開催した。昨年からの試験的にホテルから小料理屋に変更している。会議に先立ち、元支部長(草道、有馬氏) 2名の死去に対し黙とうを行いご冥福を祈り、順次進行。大学本部より高橋事務局長にご来賓いただき、最近の大学・宮陵会の現状を話していただき、参加者全員興味深く拝聴していた。会議は滞りなく終了、懇親会へと続く。
- 自己紹介、校歌斉唱、万歳三唱へと続き、来年も再会を約束し閉会となった。

大分支部総会
平成19年11月10日

- ① 専務理事 大場 憲治
- ② ホテルキャッスルオーイタ
- ③ 34名
- ④ 今回は平成卒業の方が5名と、過去一番多い割りあいになりました。又初参加の方も5名でした。皆で声をかけあって、支部総会参加者を50名以上にしたいです。
- ⑤ 年一回の総会が主な活動内容です。



- ① 副会長 秋田 琢次
- ② 野毛フレンド
- ③ 19名
- ④ 7月14日に総会を開催。出席者19名。
- 1、秋田副会長より大学及び宮陵会の最近の活動報告。
- 2、南区支部 活動及び対策
会員の高齢化が進む中で特に若年層のOB OGの入会を一人一人が身近な範疇からアプローチしようということになり推進委員会を設けて活動を起こし、今後人事を含めて活性化を図りたい。
- ⑤ 一月二日、三日の箱根駅伝には有志により保土ヶ谷駅前にて、「のぼり」を立て応援しております。

南区支部総会
平成19年7月14日

- ⑤ 同窓生はやはり気がねなく話が出来良いという全員の意見であった。
- ⑤ 20年5月 九州ブロック総会
- 20年10月(予定) 支部総会



- ① 理事 大場 憲治
- ② モンテファアレーヨコハマ
- ③ 20名
- ④ 西條副支部長の司会により開会、支部長挨拶・来賓挨拶・出席全員の自己紹介の後、議題を審議し、原案とおり承認した。
- なお、任期満了による役員改選については全員再任とし、以下の四氏が新たに役員に就任した。総会終了後、懇親会を開催し、盛會裡に終了した。
- 事務局長(幹事)
田中 嘉人(33経卒・前会計)
幹事 山下 力(39経卒)
同 谷 浩輔
(40法卒・前事務局長)
同 芥川 美津男(52経卒)
⑤ 19年度事業計画
- 1、会議
- 役員会(随時)・総会(5月)
- 2、会員名簿
- 作成(卒業生全員・本部資料
支部会員・総会後)
- 発行(事前の了解必要 目的以外使用不可)
- 3、会報 作成・発行

保土ヶ谷・旭区支部総会
平成19年5月19日

- ⑤ 20年10月(予定) 支部総会

防長支部総会

平成19年12月2日



- ① 副会長 秋田 琢次
- ② ホテルみやげ 18名
- ③ 師走に入り、あわただしいなか、例年通り開催しましたが、いつもより1カ月ずれ込んだこと、それぞれに行事がたて込んだのか、少し参加者が少なかった。それでも初めて参加してくれた者が2名おり、これが次の“ひろがり”につながると思いたい。
- ④ 20年3月 懇親会
- ⑤ 20年5月 大学80周年行事参加
- ⑥ 20年7月 役員会

伯耆支部総会

平成19年6月30日

- ① 事務局次長 稲垣 俊博
 - ② 米子ニューアーバンホテル 24名
 - ③ 6月30日、本学より事務局次長稲垣俊博様をお招きいたし、米子ニューアーバンホテルにて、19年度総会が開催されました。
- 当支部は本年設立20周年を迎える事

になりました。記念事業の開催に際し、

出席者より関連な意見が飛びかう中、今後役員会等で事業化していく事が決まりました。総会後は、懇親会が行なわれ、近況報告等で大いに盛りあがりました。

- ⑤ 役員会（支部設立20周年記念事業について）
- ・新年互礼会
- ・支部設立20周年事業（内容は未定です）



因幡支部総会

平成19年8月25日

- ① 副会長 武笠 建次
- ② 鳥取シティホテル 35名
- ③ 諸般の事情により、数年ぶりの支部総会になってしまいました。役員改選により新支部長として中尾純一氏（45年建築）が選出されました。総会では、武笠副会長の挨拶をかねて、母校の近況を聞かせていただき、少子化傾向が続くなかで、青春の学舎である我が母校の限らない発展に、大いなる期待を同じくしたところでもあります。
- 懇親会では、出席者から六角橋付近で過ごした学生時代の思い出話に大いに笑い、思い出し、久々の楽しい交流

の時を過ごすことができました。

⑤ 今後の支部活動のあり方として、新役員の連携を密にして、それなりに工夫した活動ができるよう計画をすることとしております。

特に、若い人に対しての会員加入と在学生との交流会等ができればな...というところと検討をしているところで

香川支部総会

平成20年1月3日

- ① なし
- ② ホテルニューフロンティア 38名
- ③ 平成20年1月3日（木）正午から香川支部総会を開催した。総会終了後、写真撮影を行い、午後1時から懇親会に移った。箱根駅伝復路での神大の巻き返しに同会も盛り上がりながら、1年ぶりに再会する人や、会員相互において親睦・交流を深める事ができた。今回が初めての参加者も4名あり、今後においても参加いただけるということまで心強く思った。
- ④ 19年1月3日 香川支部総会（神大レポート）を発行
- ⑤ 6月17日 父母懇談会出席
- ⑥ 8月4日 役員会
- ⑦ 9月15日 夏期親睦行事（塩江温泉1泊）
- ⑧ 9月16日 親睦ゴルフ大会（鮎滝カントリー）
- ⑨ 10月28日 「かがわ国際フェスタ2000」ボラティア参加
- ⑩ 11月17日 神大創立80周年記念行事四国ブロック会参加（松山市）
- ⑪ 11月18日 神大吹奏楽部松山コンサート参加
- ⑫ 12月15日 役員会
- ⑬ 20年1月3日 香川支部総会（神大レポート）

を発行)



高知支部総会

平成19年12月1日

- ① 専務理事 大場 憲治
- ② ホテル日航高知旭ロイヤル 32名
- ③ 19年12月1日・ホテル日航高知旭ロイヤルで支部総会、懇親会を初参加者3名を含め32名で盛大に行なった。講演会では高知大学のカナダ人の講師をむかえ「高知での15年」の演題で楽しく行った。
- ④ 19年6月 幹事会
- ⑤ 19年8月 幹事会

19年 11月 四国ブロック会
19年 12月 高知支部総会

福岡支部総会

平成19年6月9日

- ① 人事室長 勇 真一郎
- ② 福新楼 15名
- ③ 平成20年秋は九州ブロック会福岡大会！
- ④ 今回は例年に比べて出席者が少なく盛上がりに欠けたがアットホーム的に少数精鋭！発想を転換し現状打破で支部活性化を目標に膝を突き合わせて親睦をはかった。

北九州支部総会

平成19年11月17日

- ① 専務理事 大場 憲治
- ② 小倉飯店 15名
- ③ 本部より大場専務理事をお迎えして開催されたが例年の半分の参加者でした。常連の死去や病気など連なりましたが、地区担当の若手により呼びかけをしましたが残念です。私が支部長

への参加者が少ない。今後は参加した人が少しずつ掘り起こしていく努力が必要である。



筑豊支部総会

平成20年2月16日

- ① 専務理事 大場 憲治
- ② のがみプレジデントホテル 9名
- ③ 高齢者（60歳以上）しか参加しない為、病気がちの人が多く、無理が言えない。壮年は中央が福岡勤務で連絡がとりづらく若年層は少ない為、総会





神奈川大会計人会 支部総会
平成19年7月13日

① 常務理事 大林弘道
経済学部教授 西川 登
経済学部教授 田中 弘
経済学部教授 岡村 勝義
経済学部教授 奥山 茂
経済学部教授 戸田 龍介
副会長 武笠 建次

② 神奈川大学1号館308会議室
③ 32名
④ 第14回定時総会は神奈川大学1号館において32名の出席を得て開催した。第1部は午後4時30分より定時総会が開催され第1号議案から第4号議案まで全て原案通り承認可決された。第2部は講演会を行い「非常判法人会



計の変遷と展望」のテーマで岡村教授が講演した。第3部は懇親会を8階で多くの来賓と共に親睦交流を深めた。尚、今年度は将来会計人を目指す多くの学生、院生27名が出席して会員と情報交換をして有意義に過ごした。

⑤ 1、幹事会を平成18年6月2日、正副会長会を平成18年10月12日に開催
2、賀詞交換会を平成19年1月23日に開催
3、第10回全国会計人会サミットに3名出席した。又、7大学の友好会計人会の総会に出席した。
4、試験合格祝賀会が平成19年1月19日に開催した。
5、会計人会ゴルフコンペを平成18年11月14日に開催した。
7、会計人会として今年も大学に教育基金を寄付した。

みやも電華会支部総会
平成19年6月3日

① なし
② ホテル京急油壺「観潮荘」
③ 会員12名 内同伴3組 計15名
④ 「第39回みやも電華会」総会は梅雨入り前の好天に恵まれ、全国各地から、ご同伴の奥様方を含め15名が参集した。

初めに記念写真の撮影、経過報告、来年の予定などを話し合い、懇親会に入る。

当初は20名の出席予定であったが歳には勝てず15名になってしまったのは残念であったが、皆さんそれぞれの健康維持術の披露等を交え賑々しく回顧談や今後の計画等を語り合い、楽しいひと時を過ごした。懇親会後も各自の部屋での雑談や囲碁を楽しむグループもあり、旧交をあたためた一夜であった。

⑤ 1、会友の近況及び情報の一覧、

名簿等の配布
2、来期の総会開催地として熱海を提案、賛意を得る

判然した結論はでなかった。
宮陵会本部より学会員長谷川松雄に對する感謝表彰の照会をして、役員について正副支部長は留任して次年度も執行することになりました。最後に専務理事平能孝一氏より長谷川氏に表彰状・記念品の贈呈。
⑤ 支部活動について、参加者の意見を基に、幹事会にて検討する。
尚、本年のホームカミングデー10月21日には参加者は全員出席するように意見が合った。

歩伍会支部総会
平成19年12月10日

① なし
② 津多摩
③ 14名
④ 下記にも書きましたが、500名近いメンバーも80歳前後となり、また全国的に在任している為、本人志望や体調不良やメンバー自身が外出不能や、家族の病気などで、総会に参集するメンバーが少なくなってきたております。郵送料補助打ち切り会員との交流を稀薄にしております。
⑤ 年1回の頻度で総会を開催しておりますが、何分80歳近い会員のため総会の案内は以前の年会費を積み立てて



① 専務理事 平能 孝一
② いざよい
③ 9名
④ 支部長挨拶、経過報告、今後の支部運営について、提案があり討論では

24宮陵会支部総会
平成19年6月18日



⑤ 年1回の頻度で総会を開催しておりますが、何分80歳近い会員のため総会の案内は以前の年会費を積み立てて

三三三支部総会
平成19年11月24日

① 副会長 武笠 建次
② 横浜クルーズ・クルーズ
③ 29名
④ 平成19年11月24日(土)12時より、横浜駅東口スカイビル27階、横浜クルーズ・クルーズにおいて第26回三三三支部総会が開催された。
秋田幹事の司会進行のもと、式次第に則り滞りなく進められた。
宮陵会より来賓武笠建次副会長が臨席、ご祝辞をいただきと共に新井三夫、秋田琢次両宮陵会副会長の三氏が揃い開催できたことは光栄なる記念すべき総会になった。当日出席者29名の多数の参加を見、相互のコミュニケーションを図り親睦を深める大変有意義な会合とすることが出来ました。
来年は卒業後50年を迎えることとなり、何か記念できる企画等を検討して

おりましたが、それも底を突きましたので総会案内も30人前後しか出ておりません。毎回10人前後で2ヶ月に1回懇親会を開いております。



⑤ ゴルフコンベン3回
・役員会・幹事会(卒後50年記念総会企画検討会)
・総会(第27回)

神奈川大学ボクシング部 O B会支部総会
平成19年11月10日

① 副会長 秋田 琢次
② 体育振興委員会委員長 手塚 正
新横浜フジビューホテル
③ 65名
④ 60周年記念式典の同時開催もあり、多数のOBが全国より集まった。
2007年の活動・決算報告、2008年度活動計画、予算案、役員改選の後、OB1人ずつ自己紹介を行った。
4月・関東大学トーナメント(3部)の試合案内
11月or12月..OB総会
・その他メールで連絡のとれるOBには試合の報告
・部への支援

盛大なる記念総会を開くことを誓い、皆健康に留意し次回を楽しみに校歌と応援歌を斉唱し閉会した。



⑤ ゴルフコンベン3回
・役員会・幹事会(卒後50年記念総会企画検討会)
・総会(第27回)

神奈川大学ボクシング部 O B会支部総会
平成19年11月10日

① 副会長 秋田 琢次
② 体育振興委員会委員長 手塚 正
新横浜フジビューホテル
③ 65名
④ 60周年記念式典の同時開催もあり、多数のOBが全国より集まった。
2007年の活動・決算報告、2008年度活動計画、予算案、役員改選の後、OB1人ずつ自己紹介を行った。
4月・関東大学トーナメント(3部)の試合案内
11月or12月..OB総会
・その他メールで連絡のとれるOBには試合の報告
・部への支援

盛大なる記念総会を開くことを誓い、皆健康に留意し次回を楽しみに校歌と応援歌を斉唱し閉会した。

支部設立10周年記念号を発行する。そのための準備体制を整える編集委員会を立ち上げる。

4、ホームページ（HP）立上（体裁）

内容（書込）
検討する。（インターネット、発信する情報、人員、予算など）

5、親睦会

旅行（箱根保養所の活用）・ゴルフ・その他

6、本部要請

箱根駅伝応援（日時）・応援ポイント（場所）・その他

7、その他目的達成に必要な事項

戸塚・栄区支部

平成20年3月15日

① 小林事務局長次長

② 神奈川県大学1号館301会議室
③ 19名

④ 本支部設立一年が過ぎ、初めての総会が三月十五日母校にて開催されました。活動報告をはじめ各議案は無事承認され、二年目に向け活発な意見交換が行なわれました。また総会終了後の懇親会では、世代を超えていつまでも話が尽きない時間を過ごしました。



⑤ 1、箱根駅伝の応援
2、会報等の発行
3、スポーツ・文化・地域・社会活動への貢献
4、その他

箱根支部総会

平成19年6月28日

① なし

② ホテルおおかだ

③ 10名

④ 平成19年度箱根支部総会を箱根湯本ホテルおおかだを会場として、開催しました。永革支部長の挨拶で始まり、母校の現状報告等がありました。今後の総会及び活動について意見交換を行い、最後に校歌、応援歌の合唱で、なごやかな中に、お開きになりました。

⑤ 6月28日 総会・懇親会
10月中旬 ゴルフ大会
1月2日・3日 駅伝応援会



平塚支部総会

平成19年7月16日

① 副会長 秋田 琢次

② やまいち

③ 9名

④ 従来はホテル等で総会・懇親会を

開催しておりましたが、気軽に参加出来る、楽しい企画を考えていただきたいの意見が多くあり、マイクロバスをチャーターしてビール工場を見学するという企画を立てましたが参加希望者が少人数のため急遽従来の型に変更して実施しました。役員改選を承認し、今後の支部活動について意見交換をしました。

⑤ 1、箱根駅伝沿道応援及び新年会

2、定期総会の開催

3、宮陵会行事への参加

4、宮陵会サロンを定期的に開催できないか研究する。（月1回気軽に自由参加できるサロンを開催したい）

西多摩支部総会

平成19年6月3日

① 専務理事 大場 憲治
② 羽村市生涯学習センター

③ 「ゆとりぎ」
④ 10名

④ 昨年度は箱根駅伝予選会が昭和公園で開催されました。支部対象地域を立川市在住卒業生へも総会参加を呼びかけました。
本年度も10月20日（土）に開催されるので、会員への呼びかけをして参加



会員の拡大をします。
⑤ 1、6月の総会と懇親会の開催
2、月1回の目標で、役員会及び有志者による定例会の開催
3、年1回の会員への情報提供として「会報」の発行
4、箱根駅伝予選会へハガキによる応援を呼びかけ
5、その他

南足柄支部総会

平成19年6月9日

① 専務理事 大場 憲治

② 南足柄市女性センター

③ 14名

④ 宮陵会本部から大場憲治氏、相模原支部事務局長高橋一行氏が来賓としてご出席を頂き、会員参加14名、委任状11名で総会成立後事務局からの18年度事業報告、会計報告、監査報告が説明され承認、その後19年度事業計画（案）、予算（案）が提出され承認。無事総会が終了。その後場所を移し懇親会を開催、箱根支部事務局長村上東司氏、平塚支部事務局長宮川文隆氏が参加され、支部長の挨拶の後、大野保忠相談役の発声で乾杯、皆さんの親交を深めて散会となる。



び会報（支部だより）の発行
2、会員相互の親睦行事の計画
3、母校の東京箱根間往復駅伝競走の応援
4、近隣市長の同窓生との交流を深め支部の充実を図るとともに在校生との懇親を行う。
補足 平成20年の支部成立10年に向けての会報の作成。

三浦半島支部総会

平成19年6月16日

① 副会長 秋田 琢次
神大名誉教授 植田 三夫

② 神奈川県大学8号館42講堂

③ 26名

④ 平成18年6月に支部設立総会を開催してから早1年。初めての通常総会を母校横浜キャンパスで開催しました。三浦半島地域には5、000人を超す卒業生がお住みですが会員数は僅か90人。このため平成19年度事業計画では支部会員の増強と組織基盤の強化拡充を図ることを提案し、承認されました。



総会終了後、前陸上競技部部長植田三夫先生（神大名誉教授）による講演会および懇親会を行いました。今回3名の新会員が参加され、また女性会員（平成17年卒）の職場で働く平成19年卒の女性も特別参加され会員相互の親睦を深めることができました。
当支部は設立2年目で組織基盤も確立されておりませんが、会員が三浦半島支部に入って本当に良かったと思われ「魅力溢れる支部」に発展させていきたいと考えております。

⑤ 1、18年7月、9月、12月および19年3月に役員会を開催
2、19年1月、初めての新年会を開催
3、18年10月、19年2月に会報「三浦半島支部だより」を発刊
4、18年10月、箱根駅伝予選会（立川）、11月よすかシーサイドマラソン、19年1月2日、3日の箱根駅伝出場の際にチームを応援
5、18年12月、19年3月にゴルフ同開会オープンコンペを開催
6、19年2月、歩こう会「第1回鎌倉・天園コースハイキング」を開催

クリエイトメディック 支部総会

平成19年11月3日

① 専務理事 平能 孝一

② 箱根保養所

③ 12名

④ 平成19年11月3日、宮陵会より平能専務理事様のご出席をいただき、第20回支部総会を箱根保養所にて開催しました。

総会および懇親会では、平能様より大学や宮陵会の近況などお話しいただき、楽しく有意義な総会となりました。
⑤ 年1回、支部総会および懇親会開催



た。今後、現役が「関東学生卓球リーグ2部」を維持していくためには、今まで以上の厳しい鍛錬が必要であり、OB会としても指導者の派遣、金銭面での援助等全力で支援することを確認しました。

⑤ 1、会員名簿の作成・配布（今年度は「新入会員リスト」、「現役員一覧」）

2、会員への総会の状況報告

3、卓球部の試合の「応援&懇親の会」の開催

4、親睦ゴルフ大会の開催

5、定例総会の開催

**体育会ヨット部OB会
支部総会**

平成19年11月10日

- ① 副学長 池上 和夫
- ヨット部長 山下 昭子
- 副会長 秋田 琢次
- 体育振興委員長 手塚 正
- ② ヨコハマグラウンドインターコンチネンタルホテル
- ③ 53名
- ④ 総会では50周年記念式典の準備委員会の設立案及び現役への支援策案について承認。引き続き大学、宮陵会、ヨット関係者ご臨席による創立45周年記念パーティーを開催。OB、OG、

現役含め総勢53名が旧交を温めた。

⑤ 5月..春季神奈川5大学戦支援

5月..春季関東インカレ支援

9月..定期総会

9月..OB戦

10月..秋季神奈川5大学戦支援

10月..関東インカレ予選支援（全日本インカレ出場支援）

その他

3、6、9、12月定例役員会

濱菊会支部総会

平成19年5月19日

- ① 専務理事 平能 孝一
- ② 神奈川大学22号館ミーティングルーム
- ③ 9名
- ④ 平成19年5月19日22号館ミーティングルームにおいて定期総会が開催されました。恒例行事の現役援助、箱根駅伝帯同応援、4年生慰労会の活動報告及び会計報告が臼井事務局長から報告。また本年9月支部設立10周年の記念行事についても具体的な議題として話されました。

**神奈川大学学土山岳会
支部総会**

平成19年6月24日

- ① 副会長 秋田 琢次
- ② 神奈川大学16号館視聴覚室
- ③ 26名



④ 去る6月24日横浜キャンパス16号館視聴覚室に於きまして、宮陵会より秋田副会長のご臨席を賜り、第6回学土山岳の定期総会が開催されました。世界七大陸最高峰登頂を目指して七年目を向かえ、これまでに無事五峰の登頂を果たしました。残すところ、アジアのエベレストと南極のビンソンマシフのみとなり、いよいよ会の総力を上げて取り組むべく総会において会員の意識統一を確認いたしました。2009年の遠征により残すこの2峰の登頂に成功すれば大学としては日本初の快挙となり、またエベレスト登頂遠征隊としては神奈川県で初めての遠征隊となります。21世紀初頭の我神大の歴史の1ページとして何としても達成したいものである。

**神奈川大学写真研究部
OB会支部総会**

平成19年6月2日

- ① 内部監査室長 久米 信行
- ② 神奈川大学箱根保養所
- ③ 27名
- ④ 例年のとおり、箱根の保養所にて開催（1泊2日）。全国より27名が参加。今年度は横浜キャンパスの現役写真部員が4名参加し、OBと現役生との交流が実現しました。久々に晴天に



恵まれ、気持ちの良い箱根を楽しんでいただけだと思います。

⑤ 4月〜3月を1年とし、役員は2年を一期として活動。5月に会報を発行し、6月第1土・日に総会を開催。総会にて会計を公開しています。平成19年度は12月に横浜四大学写真展にOB会として作品を出品しました。平素は、ホームページにてOB会の作品を募集し、掲載しています。

清輝会支部総会

平成19年6月17日

- ① 専務理事 平能 孝一
- ② 神奈川大学箱根保養所
- ③ 9名（外家族2名）
- ④ 本支部は清輝会に入寮した者で構成されています。会員は全国におり高齢化が進み出席者が減少の中、横浜を中心に地方開催も為し会員の交流を計っております。
- ⑤ 今回は徳島、岡山よりご夫婦にて出席があり、関東近県から7名の出席を得て開催されました。



活動報告が為され続いて大田代議員より事業計画等の報告がありました。

議題に沿って会計報告、監査報告が為され続いて役員改選に入りました。支部長より提案がなされ質疑応答の結果全員留任と欠員の補充が左記の通り決定しました。

会長・支部長 前田政雄（34法）

幹事 蔵持政春（36経）

幹事 塚間秀虎（37経）

幹事 小山忠男（37質）

事務局・会計 小林滋典（36経）

幹事 藤原泰博（33質）

会計監査

女性会員のつどい

平成20年2月17日

- ① 副会長 秋田 琢次
- ② 横浜 横浜税関の見学&赤レンガ倉庫BIBO-EXでの懇親会
- ③ 24人
- ④ 「開催コメント(年間予定等)」

例年約4千人の方に開催案内を郵送にてご連絡していましたが、今年度より宮陵会報に掲載することに変更いたしました。今年は何人参加されるだろうと不安に感じられましたが、初めて参加される方6人を含む計24人が集まる盛大なつどいとなりました。

横浜税関の見学会では、職員の方が館内を案内してくださり、開港150周年を迎える横浜港の発展と、横浜税関の歴史を開港当時にまで遡って振り返り、新たな発見をすることができました。

その後、赤レンガ倉庫BIBO-EXにて懇親会を行いました。心ばかりのお土産ですが、くじ引きによりお持ち帰りいただいたり、美味いご馳走をいただいたりながら大変楽しく会話も弾みました。また、夕暮れ時の夜景が美しく、日常をちよっと離れて優雅な時間を過ごすことができました。

参加された方から、その後いただいたメールを少しご紹介いたします。

・昔のことを懐かしく思います。大学も創立80周年、時代を感じますね。

・卒業後、大先輩にお会いする機会は減少にありません。お話できるなんて素晴らしいことだと思います。このような集まりを知らず後悔いたしました。来年も友人を誘って是非参加いたします。

最後になりますが、今年も女性会員が楽しく集える企画を考えますので、宮陵会報12月号に楽しみにしてください。なお、次回は参加してみたい。つどいの案内を送付してください。FAXには、氏名・郵送先・電話番号・卒年・学部を記載してご連絡願います。

神奈川大学バスケットボール部OB会支部総会

平成19年7月14日

- ① 専務理事 平能 孝一
- ② 神奈川大学1号館301会議室
- ③ 15名

④ 平成19年度の定期総会を開催しました。平成18年度事業報告並びに決算報告、平成19年度事業計画・予算案について承認を得ました。今回、年2回発行している会報「ファースト・ブレイク(遠攻)」と合わせて、ホームページを開設する事が出来、全国各地で活躍中のOB諸氏との情報交換の場をさらに広げていきたいと思います。総会終了後、横浜西口岡田屋モアーズ8階の中華レストランで懇親会を行いました。

現役も男子が関東大学新人選で6位入賞するなど活躍しています。我々OBも元気でがんばろうと再会を約束して解散しました。

神奈川大学空手部OB会支部総会

平成19年6月16日

- ① 副会長 秋田 琢次
- ② 神奈川大学19号館ラックスホール
- ③ 14名

④ 昨年同様若手OBの出席が増え、



14名のOBにて総会が開催された。宮陵会より秋田副会長がご多忙の所ご出席され、大学の現状、宮陵会の役員紹介、体育会他他状況、宮陵会設立70周年記念事業の本年10月開催計画等の説明がなされた。

次に、中山会長より18年度の活動報告および19年度活動計画が説明され、特に大きなテーマとして、OB会員への新会報の企画、発行を計画している旨提案がなされ承認された。

役員改選の提案がなされ、会計担当の崎前氏が退任し、中里氏の就任が承認された。会計より、18年度収支決算報告では、繰越金106万円となり、現幹事会役員への努力に対し、賞賛の拍手があった。

19年度収支予算では、OB会運営に必要な出費は、幹事会で充分なる審議の上で、予算化していきたい旨説明され、承認された。

監督より、現任役員数25名体制および現役の活動報告がなされ、又、OB会ホームページの立ち上げについての説明がなされた。

総会終了後は例年の通り学生との合同懇親会が開かれ、総勢50名近い参加者で大いに盛り上がり、OB、学生との交流が計れた。

- ⑤ 平成19年 7月14日OB幹事会
- 10月20日OB幹事会
- 12月15日OB幹事会
- 及び空手部納会
- 平成20年 2月2日OB幹事会
- 4月19日OB幹事会
- 6月14日OB幹事会

柔道部OB会支部総会

平成19年12月1日

- ① なし
- ② 神奈川大学17号館215教室
- ③ 60名(委任状含)
- ④ 納会の前、午後4時より柔道部長参列の元に総会を開催。

伊藤OB会長より年間事業報告と現役柔道部・宮陵会との関わり・会計報告が行われた。

最後にOB会役員変更で現柔道部総監督の木村氏をOB会の次期会長に選任し、全員の賛同を得て総会を終えました。

- ⑤ 平成20年度事業計画
- 1、新入生歓迎会
- 2、夏期合宿壮行会
- 3、納会
- ・宮陵会行事への参加
- ・OB会・親睦会の開催
- ・現役部員の強化へ後方支援



神奈川大学アメリカンフットボール部OB会支部総会

平成19年6月30日

- ① 学生生活支援部事務部長 水上 晃
- 専務理事 小川 勲夫
- ② 神奈川大学横浜キャンパス22号館
- ミーティングルーム
- ③ 25名

④ 創部以来初めて一部に昇格した昨年と比べて今一つ支部活動に熱が上がり、人を集め、運動が必要である。また

昨年までの卒部者386名に対して会費納入率は40%弱である。当面は50%

を目標に頼りになるOB会を目指す。

- ⑤ 4〜6月 オープン戦応援
- 6月最終土曜日 OB会総会
- 8月 夏合宿差し入れ
- 9〜11月 リーグ戦応援
- 1月 納会出席
- 3月 追出しコンパ出席



神大レスリング部OB会支部総会

平成19年11月3日

- ① 副会長 秋田 琢次
- 事務局長 平能 孝一
- レスリング部副部長 関口 博正
- レスリング部監督 吉本 収
- レスリング部マネージメント コーチ 関野 弘之
- ② 神奈川大学ラックスホール
- ③ 32名

④ 昭和27年創部され、大学の支援により、ここ数年、多くの部員を擁し、東日本リーグ戦においては、一部常連校になり、個人では学生チャンピオンを輩出するまでになりました。今後の現役の隆盛を保つ為、OB会として、支援を続けていきます。

⑤ 11月の総会、2月の卒業生送別会、4月の新入生歓迎会の現役との接触。5月の東日本リーグ戦及び各大会への応援。

北野会長の宮陵会理事への就任、及

レスリング部OB会支部として各会への出席



神奈川大学ラグビー部OB会支部総会

平成19年4月28日

- ① 副会長 秋田 琢次
- ② 神奈川大学付属山中高キャンパス
- ③ 38名

④ (社)宮陵会本部より秋田専務理事のご出席を頂き開催した。午後1時より定期総会を、OB38名出席のもと行い、2時30分から例年通り、現役と若手OBとの親善ゲームを行い、秋田専務にも観戦願う。予定では4時開始の現役を交えての恒例となっている懇親会は雨の為30分遅れたが、現役26名参加で行う。

- ⑤ 幹事部を年間9〜10回行い、会の運営、現行の強化支援の会議・住所不明者の住所確認作業・年会費寄付の依頼
- ・年1回の会報発行(名簿は2年(1回))
- ・5〜6月 春季大会の応援指導
- ・8月 夏期合宿参加応援指導
- ・9〜11月 関東大学リーグ戦の応援指導
- ・10月と12月に会費未納者に再依頼書郵送

・総会は原則GWの初日 平成20年は4月26日予定

神奈川大学卓球部OB会支部総会

平成19年11月10日

- ① 専務理事 小川 勲夫
- ② 神奈川大学横浜キャンパス10号館
- 3階ラウンジ
- ③ 79名(内37名は準会員)

④ 本年の総会は、神大卓球部史上初の関東学生卓球リーグ2部昇格を果たした現役諸君を迎え、お祝いする会も併せて開催し、会員も例年より多数の参加を得ました。宮陵会からは小川専務理事のご出席をいただき、宮陵会からの前支部長梅津氏に対する感謝表彰の伝達が行われました。同時に梅津氏及び大友・桐ヶ谷の両前支部長に対し当支部からの感謝状の贈呈を行い、長年にわたりOB会の発展に尽力されたことに対し感謝の意をお伝えしました。

